

iD48

24in | 32out

オーディオ・インターフェイス

Manual v2.0

AUDIANT

audient iD48

iD48のご購入ありがとうございます。
まず、audient.com/products/iD48 にアクセスして、最新ソフトアプリやファームウェアをダウンロードしてください。

同梱物:	主な仕様:
<ul style="list-style-type: none">iD48本体主電源ケーブルラックイヤーUSB - type C & USB - type C cableクイック・スタートガイド	<ul style="list-style-type: none">8 x クラスA、Audient コンソール・マイクプリアンプクラス最高峰のAD/DAコンバーター2 x ディスクリート JFET インストルメント入力メインおよびオルタネートスピーカー出力2 x デュアル・ヘッドフォン出力2 x ADAT 入出力8つの切り替え可能なバランスインサート/ライン出力超低レイテンシーDSPミキサーオーディオ・ループバック2 x ユーザー設定可能なファンクション・キー専用のDim、Cut コントロール+48V、Pad、HPFコントロールワードクロック出力USB 3.0 準拠24bit/96kHzワードクロック入出力オールメタル設計無料ソフトウェア&プラグイン

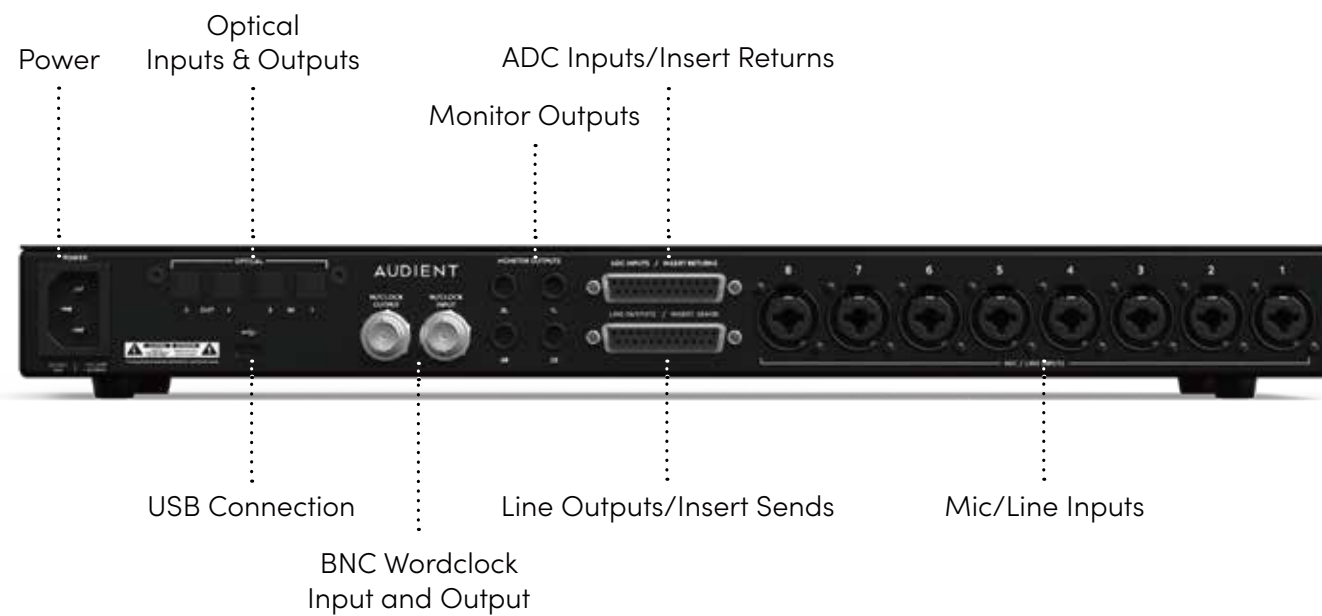
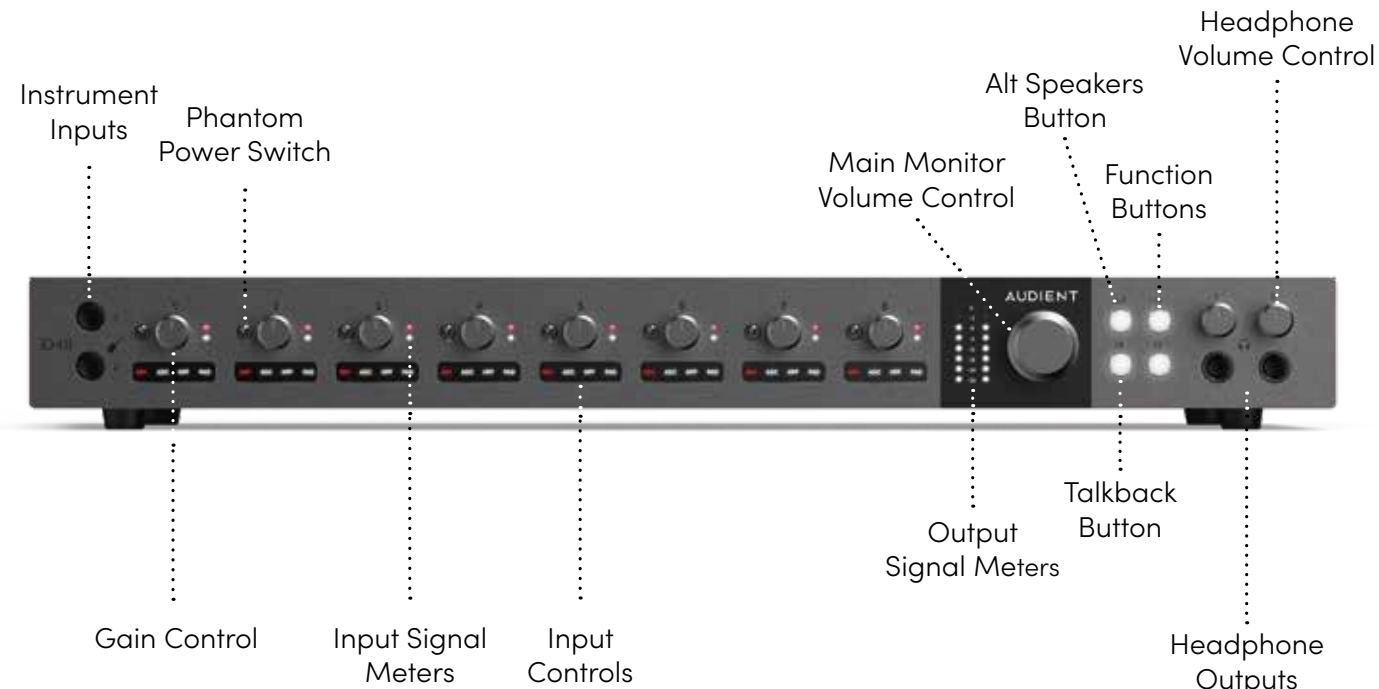
ソフトウェア・ダウンロードURL
<https://audient.com/products/audio-interfaces/iD48/downloads/>



目次

iD48の概要	4	DAWの設定	53
		Pro Tools セットアップ	54
		Logic Pro セットアップ	55
		Cubase/Nuendo セットアップ	57
		Ableton Live セットアップ	59
安全にご使用頂くための注意	5		
Declaration of Conformities	7		
インストール方法	8		
MacOS の場合	9		
Windows の場合	10		
iDアプリとファームウェアアップデート	11		
ハードウェアについて	12	トラブルシューティング & FAQ	60
マイクプリアンプ&ライン入力	13	スペシフィックेशन	63
インストルメント入力	13	サイズ	64
入力コントロール	14	品質保証に関して	66
3つのADCパス設定の利用方法	15	用語集	67
モニターコントロール	19		
ハードウェアメータリング	19		
ファンクションキー	19		
ALTボタン	19		
電源コントロール	19		
モニター出力	20		
ヘッドフォン出力	20		
ADC入力/インサートリターン	21		
ライン出力/インサートセンド	21		
デジタル入出力	22		
ワードクロック入力と出力	22		
クロッキングに関する情報	22		
ラックイヤーの取り付け手順	27		
ソフトウェアの概要	29		
入力チャンネル - チャンネルタイプ	30		
マスターセクションの機能	33		
システムパネルの機能	36		
ミキサープリセットの保存と読み込み	45		
オーディオ・ループバック	46		
ループバック入力の使用	47		
スタンドアロン状態を保存する	49		
メニュー/タスクバーアイコン	49		
ファームウェアのアップデート	51		
キーボードショートカット	52		

iD48の概要



安全にご使用頂くための注意

本機の使用を始める前に、マニュアル中のインストラクションや注意点をよくお読みください。

電源ケーブルを接続してiD48の電源を入れる前に、これらの手順をすべてお読みになり、後で参照できるように保存してください。

iD48は、90V ~ 264V、50 ~ 60HzのAC電圧で動作する内部スイッチ モード電源を使用しているため、動作電圧を手動で変更する必要なく世界中で使用できます。

問題があると思われる場合は、資格ある技術者にご相談ください。電源や主電圧を改ざんしないでください。危険です。火災や感電のリスクを減らすため、この装置を雨や湿気にさらさないでください。

故障と思われるような症状が発生しても、本体を開けないでください。

内部にはユーザーが修理できる部品はありません。修理は資格あるサービス担当者に依頼してください。

一般のお問い合わせ ➡ ホームページ内の「お問い合わせ」ページよりご連絡ください。
商品の修理について ➡ ホームページ内の「修理について」ページよりご連絡ください。

重要な安全上の注意事項



1. この説明書をお読みください。
2. この説明書を保管してください。
3. すべての警告に従ってください。
4. すべての手順に従ってください。
5. この機器を水の近くで使用しないでください。
6. 乾いた布でのみ清掃してください。
7. ラジエーター、ヒートレジスター、ストーブ、その他の熱を発生する機器（アンプを含む）などの熱源の近くに設置しないでください。
8. 有極プラグまたはアース型プラグの安全目的を無効にしないでください。有極プラグには、一方が他方よりも幅広の2つのブレードがあります。アース型プラグには、2つのブレードと3つ目のアースプロングがあります。幅広のブレードまたは3つ目のプロングは、安全のために用意されています。用意されたプラグがコンセントに合わない場合は、電気技術者に相談して、古いコンセントを交換することをお勧めします。
9. 電源コードが踏まれたり挟まれたりしないように保護してください。特にプラグ、コンセント、機器から出ている箇所気をつけてください。
10. メーカーが指定した付属品のみを使用してください。
11. 雷雨のときや長期間使用しない場合は、この機器の電源プラグを抜いてください。
12. すべての修理は資格のあるサービス担当者に依頼してください。電源コードやプラグが破損している、液体がこぼれた、機器の中に物が落ちた、機器が雨や湿気にさらされた、正常に動作しない、または落下したなど、機器が何らかの形で損傷している場合は修理が必要です。
13. 主電源で動作する製品の場合: 機器は滴りやはねにさらさないでください。また、液体の入った物（花瓶など）を機器の上に置かないでください。

Declaration of Conformities

FCC Part 15B

This apparatus has been tested and found to comply with the limits of a class-A digital device, pursuant to Part 15B of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

1. Re-orient or relocate the receiving antenna
2. Increase the separation between the equipment and receiver
3. Connect the equipment into an outlet on a different circuit from that to which the receiver is connected
4. Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help



We, Audient Ltd, Aspect House, Herriard, Hampshire, RG25 2PN, UK, 01256 381944, declare under our sole responsibility that the product iD44 complies with Part 15 of FCC Rules.

Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference,
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation



We, Audient Ltd, declare that the product, the iD44, to which this declaration relates, is in material conformity with the appropriate CE standards and directives for an audio product designed for consumer use.



We, Audient Ltd, declare that the product, the iD44, to which this declaration relates, is in material conformity with the appropriate UKCA standards and directives for an audio product designed for consumer use.



Audient Ltd has conformed where applicable, to the European Union's Directive EN 63000:2018 on Restrictions of Hazardous Substances (RoHS) as well as the following sections of California law which refer to RoHS, namely sections 25214.10, 25214.10.2, and 58012, Health and Safety Code; Section 42475.2, Public Resources

インストール方法

macOS の場合

1. audient.com/products/iD48からmacOS用の iD Software Mixer アプリケーションをダウンロードします。
2. ダウンロードしたファイルを開き、iDアイコンをアプリケーションフォルダにドラッグします。
3. 付属のUSB-CケーブルでiD48をMacに接続します。必要に応じて、サードパーティ製のUSB-C - A ケーブルも使用できます。デバイスはUSB 2.0 ポート以上への接続が必要です。
4. アプリケーションフォルダからiDSoftwareMixer アプリを実行します。インターフェイスに最新の機能が搭載されていることを確認するために、ファームウェアアップデートのインストールを求められる場合があります。その実行は画面の手順に従ってください。
5. 初めて iD Software ミキサーアプリを開くと、製品登録画面が表示されます。ここで、Audient ARCに製品を登録すると、アップデート通知の受け取り、専用のプラグインやソフトウェアにアクセスできます。この操作は、必要に応じて後に行うこともできます。

動作環境

macOS : 10.13.6 (High Sierra) 以降
CPU : Intel CPU またはApple Silicon CPU
メモリ : 1GB RAM 以上



Windowsの場合

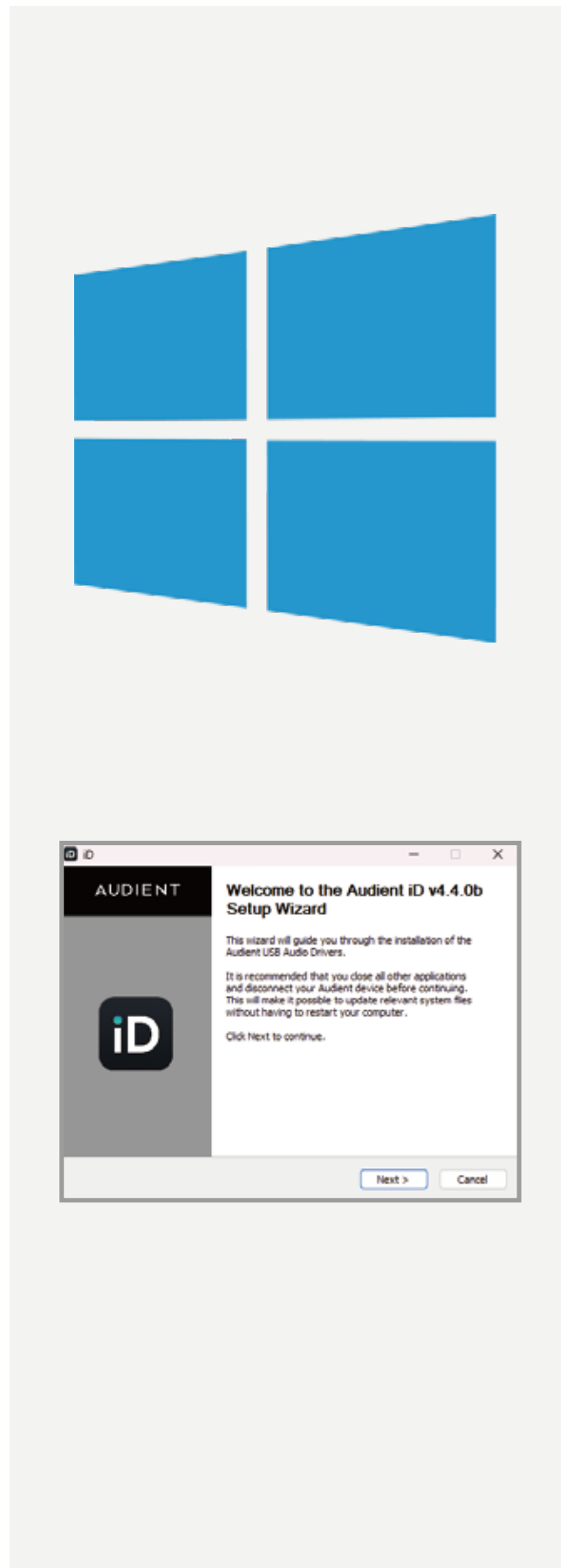
1. **audient.com/products/iD48** からWindows用のiD Software ミキサーアプリケーションをダウンロードします。
2. インストーラーを開き、画面に表示される指示に従います。ドライバーをインストールした後、iD48 をPCに接続します。Windowsがドライバーを完了してユニットが認識されるまで、数分かかる場合があります。
3. スタートメニューから、iD Software Mixerアプリケーションを実行します。インターフェイスに最新機能が搭載されていることを確認するために、ファームウェアアップデートのインストールを求められる場合があります。その実行は画面の手順に従ってください。
4. iD Software Mixer アプリケーションを初めて開くと、製品登録画面が表示されます。ここで、Audient ARCに製品登録して、アップデート通知、専用のプラグインやソフトウェアにアクセスできます。この操作は、必要に応じて後に行うこともできます。

動作環境

Windows : 10 以降

CPU : Intel Core 2 @ 1.6GHz、AMD 同等品、またはARM プロセッサ

メモリ : 1GB RAM 以上



iDアプリとファームウェア・アップデート

iD ソフトウェア ミキサー アプリケーションの起動

次のフォルダーにあるiD48ソフトウェアミキサーアプリケーションを起動します。

Mac OS

Macintosh HD → アプリケーション → iD

Windows

Start → すべてのプログラム → Audient → iD

macOSでは、iD Software Mixerアプリケーションは画面の右上隅のメニューバーで起動します。アプリケーションの機能にアクセスするには、小さなiDアイコンをクリックします。

Windowsでは、iD Software Mixerアプリケーションは、通常、画面の右下隅にあるシステムトレイで起動します。アプリケーションの機能にアクセスするには、iDアイコンを右クリックします。

iD Softwareミキサーアプリケーションの機能セットの詳細については、このマニュアルの30ページ以降を参照してください。

ファームウェアのアップデートを確認する

コンピューターがインターネットに接続されている場合、ユニットが接続されるたびにiD Software Mixerアプリケーションがファームウェアのアップデートを確認します。ファームウェアのアップデートが利用可能な場合は、ユニットを次回使用するとき iD Software Mixerアプリケーションから再度通知されます。

ヘルプメニューに移動して「Check for Updates / アップデートの確認」を選択すると、手動でアップデートが確認できます。ファームウェアが最新バージョンか、またはアップデートが必要かどうか通知されます。

Audient ARC への登録

iD Software Mixer アプリケーションを初めて開くと、ユニットを Audient ARCに登録するよう求めるウィンドウが開きます。画面の指示に従ってアカウントを作成し、ユニットに登録してください。

この登録で、無料の革新的なソフトウェアとサービスにアクセスできます。これにより、すぐに録音を開始するために必要なものがすべて揃います。

中古品はAudient ARCに登録できません。ご了承ください。詳細については、ARCの利用規約をお読みください。

<https://audient.com/arc-terms-and-conditions/>

製品登録を後日に行う場合は、登録ウィンドウを閉じてください。次回ユニットを使用するとき、ウィンドウに告知が再度表示されます。

ハードウェアについて

マイクプリアンプとライン入力

iD48には8つのAudientコンソールマイクプリアンプが搭載されています。

これらのプリアンプは、Audientのクラシックコンソールに搭載されている回路に基づいており、当社の「iDインターフェイスシリーズ」全体で使用されているものと同じです。

この設計は、極めて低い歪みと低ノイズ性能を実現するディスクリートクラスA回路を特徴としています。iD48は、高速でオープン、かつ詳細なサウンドをお届けできます。

Amphenol™ XLR/TRSジャックコンビコネクターが、マイクとライン入力の両方を兼ね備えています。ライン入力は、ラインレベル信号のクリッピングを最小限に抑えるために、マイクプリアンプを通過する前に-10dBでパッドされます。

マイクプリアンプの特徴

- 58 dBのクリーンゲイン
- 2.8kΩ以上の入力インピーダンスにより、あらゆるマイクトランスデューサータイプからパンチの効いたトーンが得られます

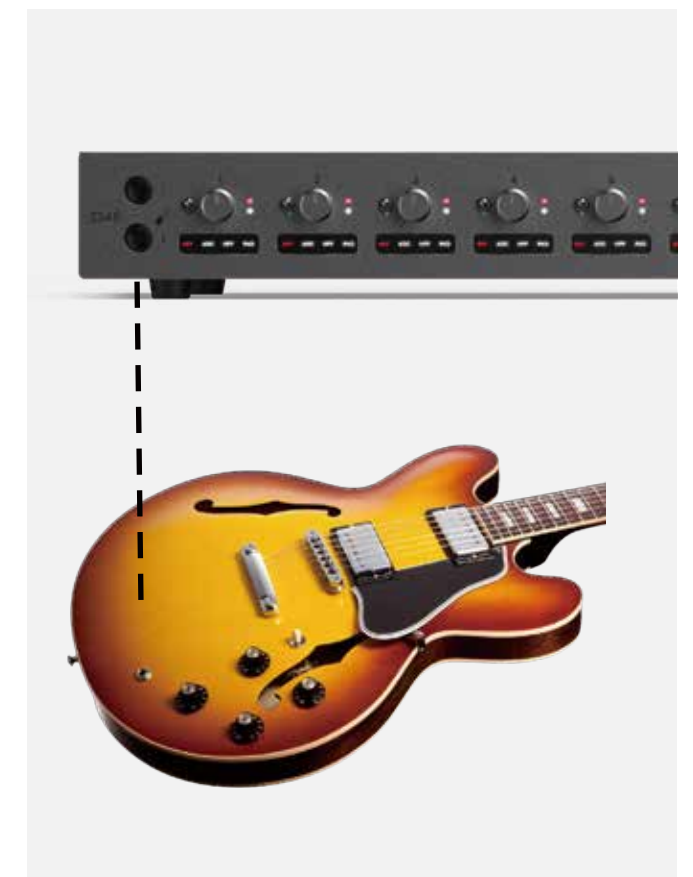


インストルメント入力

iD48は、ユニットの前面から簡単にアクセスできる、チャンネル 1 & 2に個別のクラスA JFETインストルメント (D.I) 入力を採用しています。

このJFET回路は信号にわずかな色彩と倍音を加え、ギターやベースで素晴らしいサウンドを実現します。

TS (チップ スリーブ アンバランス) ジャックを接続すると、マイク信号がオーバーライドされ、チャンネル1またはチャンネル2のいずれかが本格的な素晴らしいサウンドのインストルメント入力に変わります。





入力コントロール

各チャンネルのゲインコントロールの下には、どのチャンネルの入力コントロールがアクティブであるかを示すインジケータパネルがあります。各チャンネルには次の入力コントロールがあります。

ファンタム電源スイッチ - 各マイクチャンネルには独立したファンタム電源スイッチがあります。スイッチが上の位置にある場合、このチャンネルに接続されたマイクにフルファンタム電源（48V ±4V、チャンネルあたり10mA）が供給されます。

iD48はXLR接続にのみファンタム電源を送り、TRSライン入力はファンタム電源を受けないことに注意してください。

ハイパス フィルター - 各プリアンプには、カットオフ周波数が100Hzの切り替え可能なハードウェアハイパスフィルターも含まれています。これは、録音からランブルや室内のノイズを除去するのに適しています。ハイパスフィルターは、付属のiDソフトウェア ミキサー アプリケーションからオン/オフを切り替えることができます。

-10dB パッド - 各入力には、切り替え可能なハードウェア-10dBパッドを装備しており、ドラムなどの特に重要な音源を録音するときの信号レベル調整に役立ちます。パッドは、付属のiDソフトウェアミキサーアプリケーションからオン/オフが可能です。

ADC (バランスセンド&リターン) - 各チャンネルには、インターフェースの背面にあるDB25入出力を用いた、ADC（アナログ/デジタルコンバーター）の前に切り替え可能な挿入ポイントがあります。

チャンネルには3つのモードを設定できます。

- マイク
- ADCダイレクト
- マイクインサート

ユニットが**マイクインサート**または**ADCダイレクト**モードに設定されているときにADCライトが点灯し、この入力チャンネルがマイク/ラインコンビコネクターではなくユニット背面のADC入力から信号を受けていることを示します。

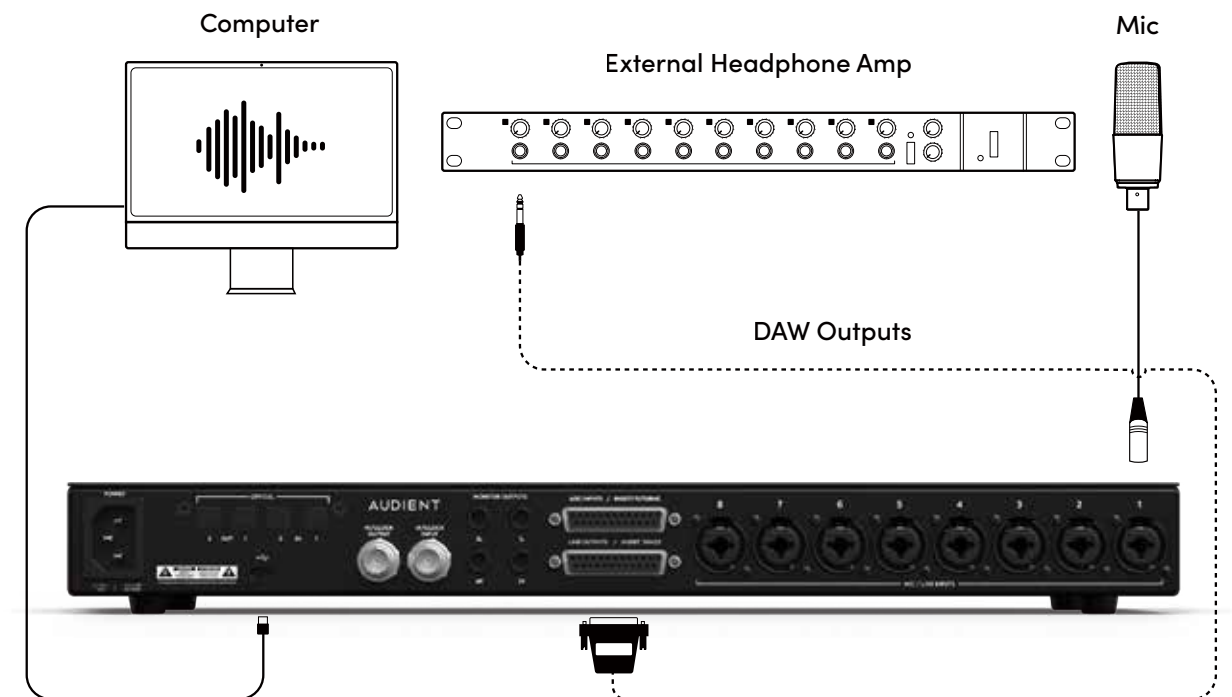
これらの設定はADCパス設定と呼ばれ、付属のiDソフトウェア ミキサー アプリケーションでチャンネルごとに調整されます。

3つのADCパス設定の利用方法

Mic / マイク

マイクADCパス設定を使うと、ADCは内蔵のAudient コンソール マイクプリアンプの出力から直接供給されます。ライン出力/インサートセンドDB25ポートは、追加のライン出力として使用できます。

追加のライン出力は、ヘッドフォンアンプなどの外部ハードウェアに供給するために使用します。

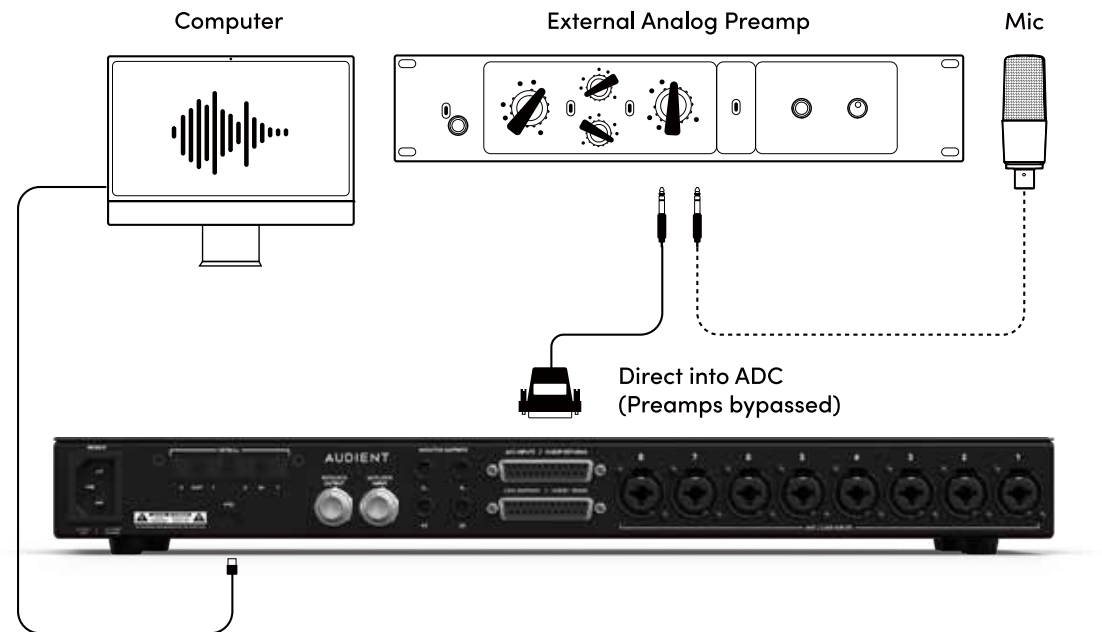


ADC Direct / ADCダイレクト

ADCダイレクト設定では、チャンネルのADCはインサートリターン/ADC入力DB25ポートから供給され、iD48に内蔵されたAudient コンソール マイクプリアンプをバイパスしてオーディオを入力できるため、ADCへの信号パスが最もクリーンになります。

この使用例の1つは、外部アナログプリアンプを使用したい場合や、iD48のプリアンプを通過せずにラインレベル信号を入力したい場合です。

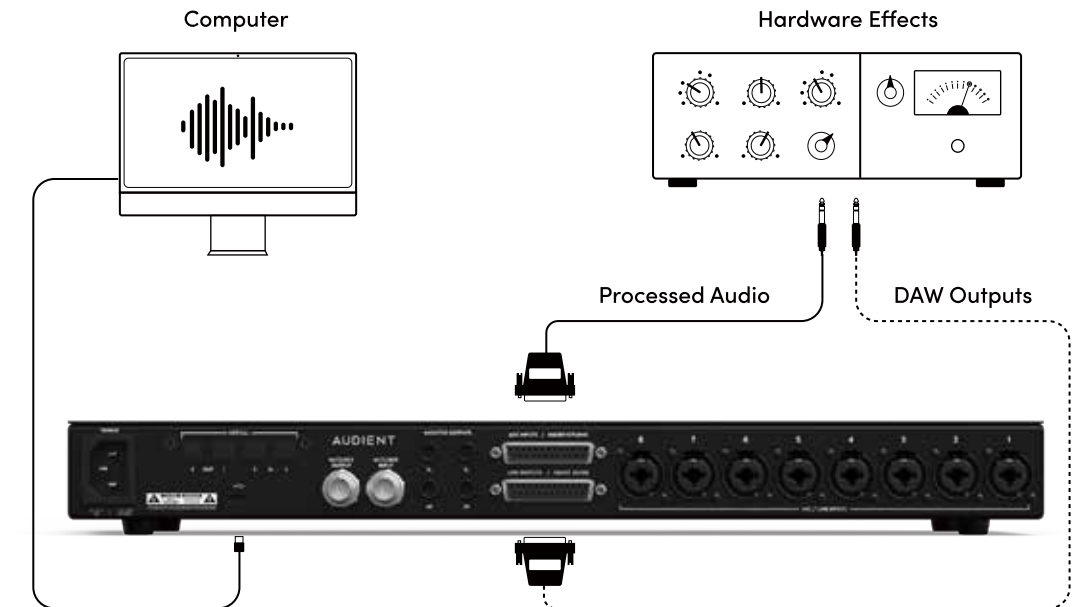
このモードでは、マイク/ライン入力からの信号にアクセスできないことに注意してください。



この設定は、DAWソフトウェアでミキシング中にハードウェアエフェクトを利用したい場合にも使用できます。

このモードでのライン出力/インサートセンドDB25ポートは、Audientコンソール内蔵マイクプリアンプではなくDACから供給され、マイクADCパス設定と同様に追加のライン出力を提供します。

したがって、DAWからライン出力/インサートセンドDB25ポートにオーディオを送り、これをハードウェアエフェクトに入力してから、処理されたオーディオをインサートリターン/ADC入力DB25ポートに戻し、DAWソフトウェアに再録音することができます。



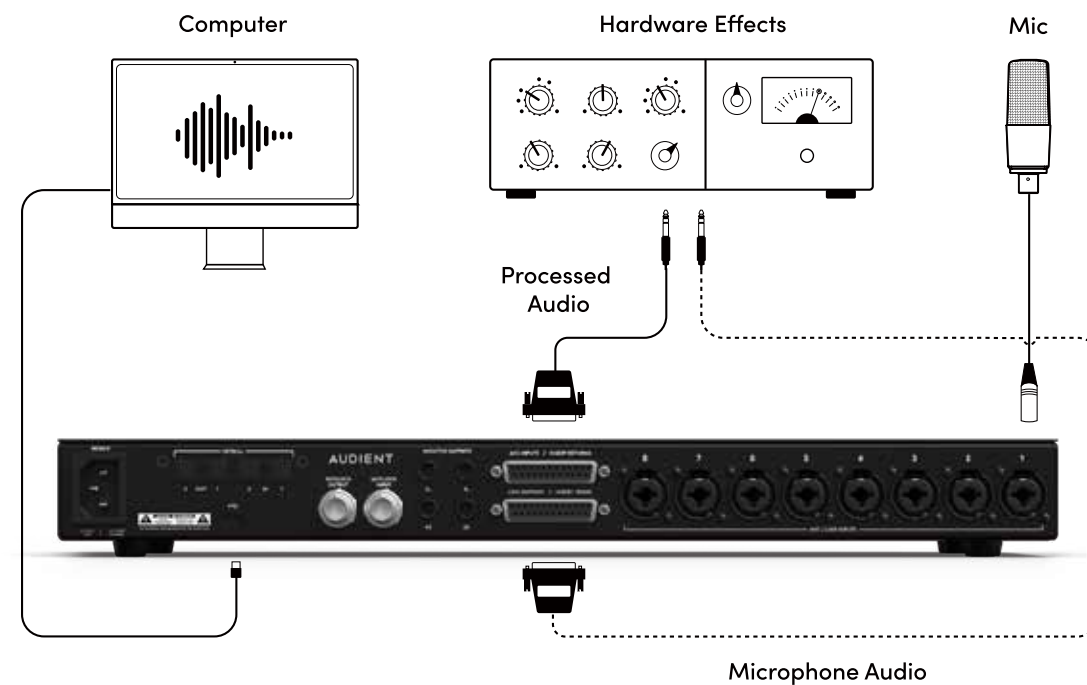
ほとんどのDAWには、DAWでオーディオを簡単にルーティングできる「ハードウェアインサート」モードまたはプラグインがあります。これらの機能の使用方法については、DAWソフトウェアのドキュメントまたはマニュアルを参照してください。

また、信号をルーティングするチャンネルに応じて、ソフトウェアルーティングマトリックスでライン出力ルーティングを**DAW ANALOGUE / DAWアナログ**または**DAW DIGITAL / DAWデジタル**のいずれかに設定する必要があります。これは、このマニュアルのソフトウェアセクションで詳しく説明されているiDミキサーソフトウェアのシステムパネルで行います。

Mic Insert / マイクインサート

マイクインサートADCパス設定を使用する場合、ライン出力/インサートセンドとインサートリターン/ADC入力 DB25ポートはインサートポイントとして機能します。

これにより、iD48のプリアンプの出力とADC入力の間、ハードウェアコンプレッサーやEQなどのハードウェアエフェクトを追加できます。これは、ボーカルチェーンを構築したり、トラッキング中にエフェクトを追加したりするのに最適です。



モニターコントロール

iD48は、大型のアルミニウム製ボリュームコントロールで優れたモニターコントロール機能を提供します。

ハードウェアメータリング

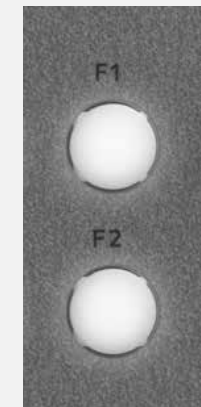
8セグメントのハードウェアメーターは、iDソフトウェアミキサーアプリケーションのメインモニタリングミックスの再生レベルを示します。

電源コントロール

iD48の電源をオフにするには、モニターコントロールを3秒間長押しします。短いLEDアニメーションが再生され、ユニットの電源がオフになります。

ユニットの電源を再度オンにするには、モニターコントロールを1回押します。短いLEDアニメーションが再生され、ユニットの電源がオンになります。

ユニットの電源はオンになっているがアイドル状態の場合、つまりユニットにオーディオが流れていない場合、メーターLEDは定期的に短いアニメーションを表示し、ユニットの電源がオンのままであることを表示します。



ファンクションキー

2つのFボタン（F1とF2）はファンクションキーであり、iDソフトウェアミキサーアプリケーションからさまざまなモニタリング機能を有効にできます。設定方法の詳細については、このマニュアルのソフトウェアセクションを参照してください。

ALTボタン

ALTボタンを使用すると、メインモニターと2セット目のスピーカーシステムへすばやく切り替えることができます。これは、ミックスがさまざまなスピーカーセットでどのように再生されるかを確認するのに役立ちます。



Monitor Outputs / モニター出力

iD48の背面パネルには、バランス型TRSジャックコネクタの2組の専用ステレオスピーカー出力があります。出力は、当社の主力コンソールであるASP8024-HEと同じトポロジーを使用してインピーダンスバランスされています。

出力は高性能DAC（デジタルアナログコンバータ）から供給され、クリーンなオーディオをスピーカーへ送ります。これは厳密なリスニングを可能にします。

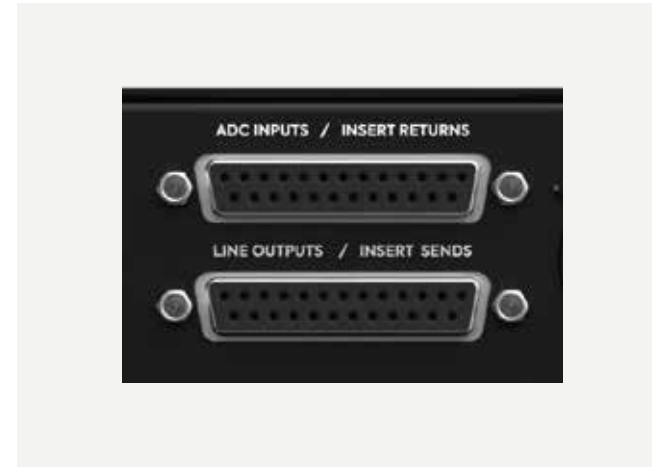


Headphone Outputs / ヘッドフォン出力

iD48には、独立した高電流ヘッドフォンアンプが2機搭載されています。ユニット前面にある6.35mmソケットの両方が使用できます。

ヘッドフォン出力は、幅広いヘッドフォンインピーダンスを快適に駆動できるため、どのモデルのヘッドフォンでも優れた音質が得られます。

各ヘッドフォン出力には専用のボリュームコントロールが備わっているため、リスニングレベルを正確に設定できます。



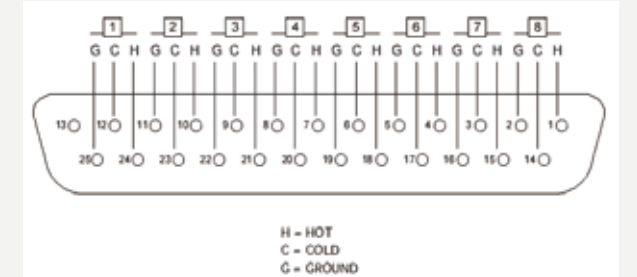
ADC入力 / インサートリターン

このDB25コネクタは、Tascamフォーマットで8つのバランス入力を提供します。これらはiD48のアナログ/デジタルコンバーター（ADC）に直接入力され、特定のチャンネルに選択されたADCパス設定に応じて、ADCへの直接入力として、またはインサートリターンとして使用できます。ADCパス設定の詳細については、15ページを参照してください。

ライン出力 / インサートセンド

このDB25コネクタは、Tascamフォーマットで8つのバランス出力を提供します。これらは、インサートセンドとして使用するためにiD48に内蔵されたAudient コンソール マイクプリアンプの出力から供給されるか、または8つのラインレベル出力を送信するために使用できます。これは、特定のチャンネルのADCパス設定を変更することによって設定されます。

ADC入力/インサートリターンとライン出力/インサートセンドの両方の接続では、Tascam形式のピン配列が使用されます。iD48に適切なピン配列を使用していることを確認するには、以下にあるTascam形式のピン配列図を参照してください。





デジタル入出力

iD48には2つのオプト入力と2つのオプト出力があります。これらは、iDソフトウェアミキサーアプリケーションから、S/PDIFまたはADATを使用する設定が選択できます。

S/PDIFモードでは、各オプト接続で最大96kHzの2チャンネルのオーディオを伝送できます。

ADATモードを実行する場合、各オプト接続は44.1kHz および 48kHzで8チャンネルのオーディオ、88.2kHz および 96kHz で最大4チャンネルのオーディオが伝送できます（ADAT SMUX プロトコルの動作による）。

これらのデジタル接続は、マイクプリアンプの追加やモニタリング出力の追加など、iD48に入出力を追加するのに最適です。これは、大規模なレコーディングセッションに非常に便利です。

iD Softwareミキサーアプリケーションでオプト出力にルーティングする方法の詳細は、このマニュアルの**ルーティングマトリックス**セクションを参照してください。



ワードクロック入力と出力

iD48は、BNCワードクロック入出力を備えており、インターフェイスを外部クロックやデジタルデバイスと同期させることができます。ワードクロック入力には、切り替え可能な75Ω終端があり、iDソフトウェア ミキサー アプリケーションで調整できます。iD48が BNCワードクロックチェーンの最後のデバイスまたは唯一のデバイスである場合は、これを有効にする必要があります。これにより、クロックの反射がなくなり、より安定したクロックが得られます。

クロッキングに関する情報

外部デジタルデバイスをiD48に接続する場合は、すべてのデバイスが同期されるようにクロッキング設定を正しく行うことが重要です。正しく設定されていないと、オーディオにクリック音、ポップ音、歪みが生じる可能性があります。

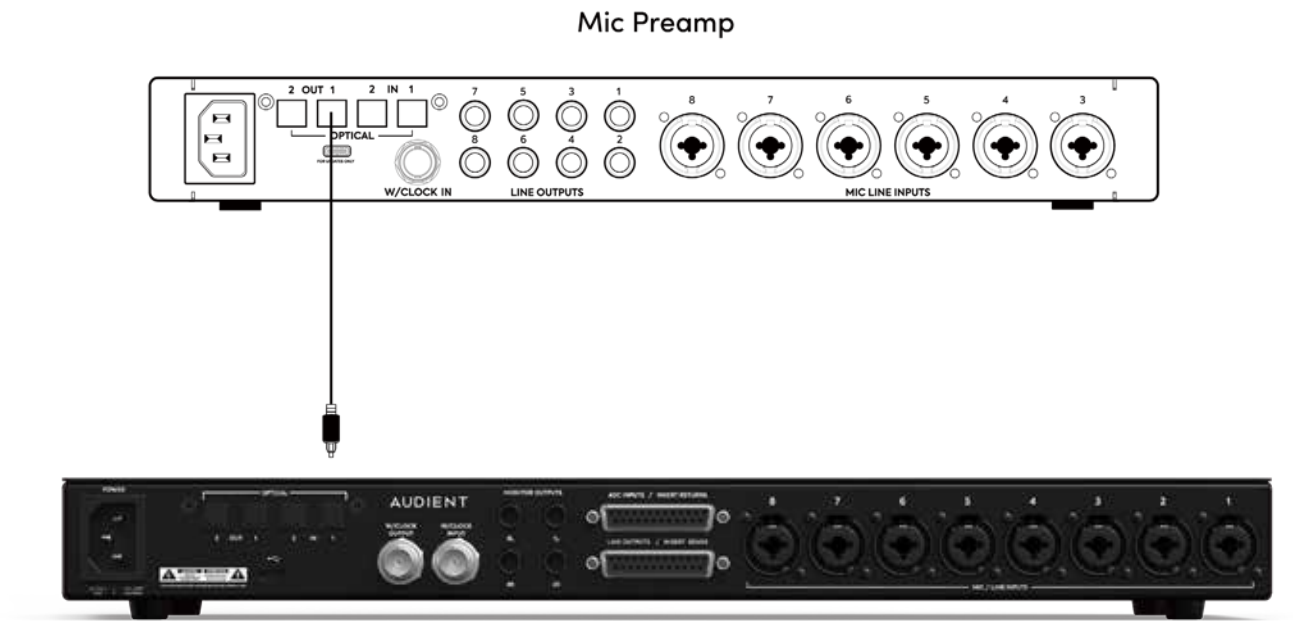
デジタルセットアップでは、マスタークロックとして機能するデバイスは1つだけです。注意してください。他のすべてのデバイスは、オプトポートまたはBNCワードクロック接続を介して、このデバイスに同期します。

豊富なデジタルI/Oを備えたiD48では、他のデジタル機器と同期させる方法は数多くあります。

iD48をADATまたはS/PDIF経由で外部デバイスに同期する場合

このセットアップでは、外部デバイスがマスタークロックとして機能します。外部デバイスのオプト出力は、iD48のオプト1入力に接続します。

iD48のクロックソースは、使用しているオプトポートに応じて「デジタル 1」または「デジタル 2」に設定されています。これにより、iD48は外部デバイスから入力されるADATストリームに同期できます。

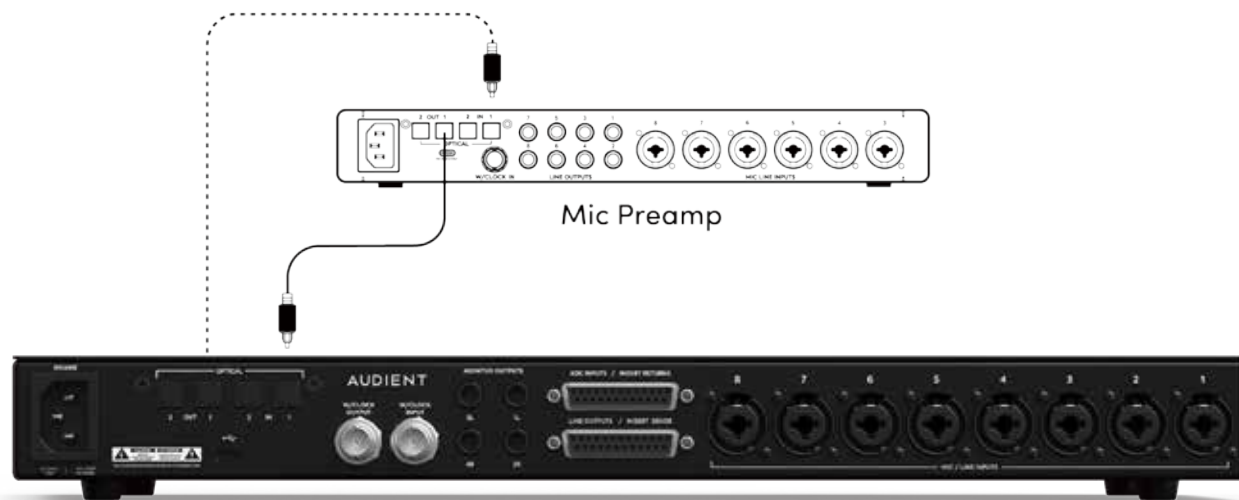


ADATまたはS/PDIF経由でiD48をマスタークロックにした接続

この設定では、iD48がマスタークロックとして機能し、クロックをオプトポート経由で外部デバイスに送信します。

図のように、外部デバイスのオプト出力はiD48のオプト入力1に接続され、iD48のオプト出力1は外部デバイスのオプト入力に接続されます。

iD48のクロックソースは、マスタークロックとして機能するため、内部に設定されています。外部デバイスは、オプトポート経由で入力クロックに同期するように設定されています。



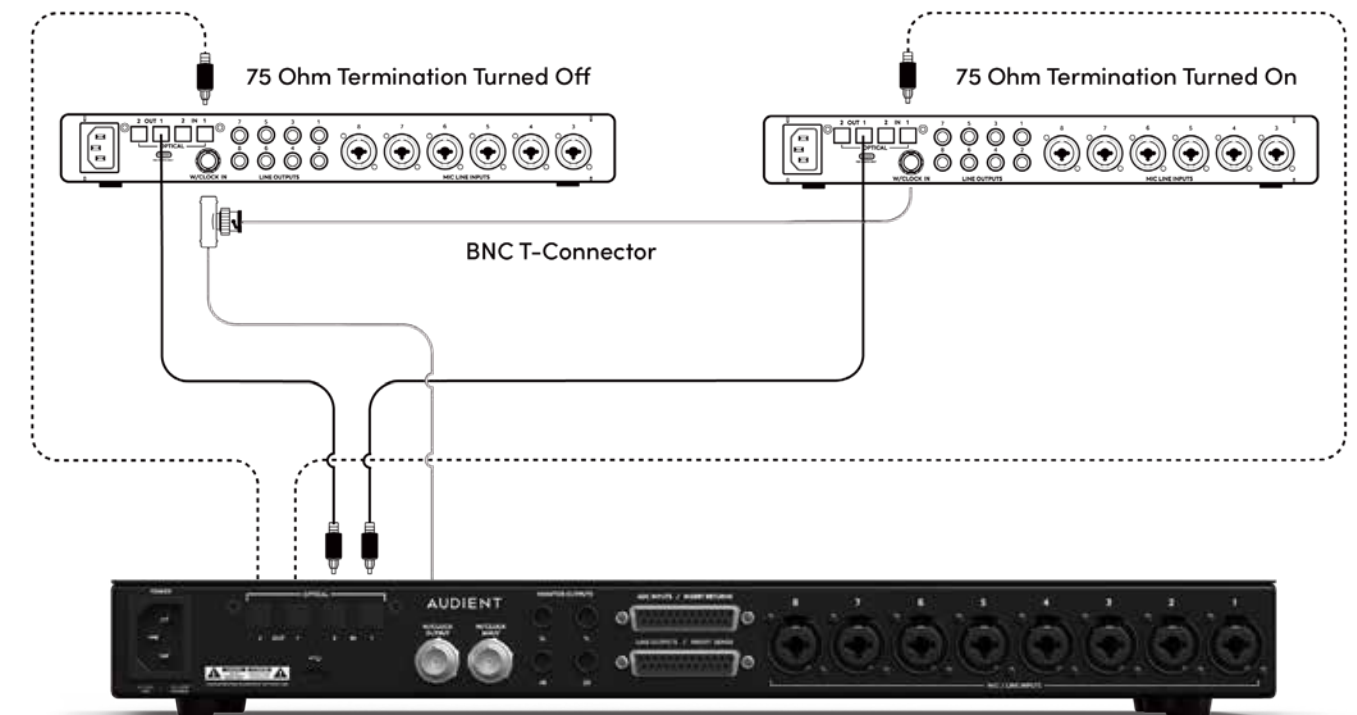
BNC経由でiD48マスタークロックにする場合

このセットアップでは、iD48がマスタークロックとして機能し、BNCワードクロック出力から2つの外部デバイスにクロックを送信します。最初の外部デバイスのオプト出力はiD48のオプト入力1に接続され、iD48のオプト出力1は外部デバイスのオプト入力に接続されます。

同様に、2番目の外部デバイスのオプト出力はiD48のオプト入力2に接続され、iD48のオプト出力2は外部デバイスのオプト入力に接続されます。

ここで、BNC Tコネクタを最初のデバイスのBNCワードクロック入力に接続します。これは、最初の外部デバイスから2番目のデバイスにBNCワードクロック信号をデジチェーン接続するためです。次に、75Ω BNCワードクロックケーブルをiD48のBNCワードクロック出力からBNC Tコネクタの入力に接続します。次に、2番目の75Ω BNCワードクロックケーブルをBNC Tコネクタの出力から2番目の外部デバイスのBNCワードクロック入力に接続します。

iD48のクロックソースは、マスタークロックとして機能するため、内部に設定されています。外部デバイスは両方とも、BNCワードクロック入力を介して入力クロックに同期するように設定する必要があります。正しく動作するように、75Ω 終端は2番目の外部デバイスでのみ有効にします。



マスター クロックによるiD48の同期

このセットアップでは、外部クロックソースを使用して、BNCワードクロック入力を介してiD48にクロックを供給しています。

75Ω BNCワードクロックケーブルが外部クロックのBNC出力に接続され、iD48のワードクロック入力に差し込まれています。

iD48のクロックソースは、ワードクロックに設定する必要があります。さらに、iD48がワードクロックチェーンの最後のデバイス、または唯一のデバイスである場合は、75Ω終端を有効にします。



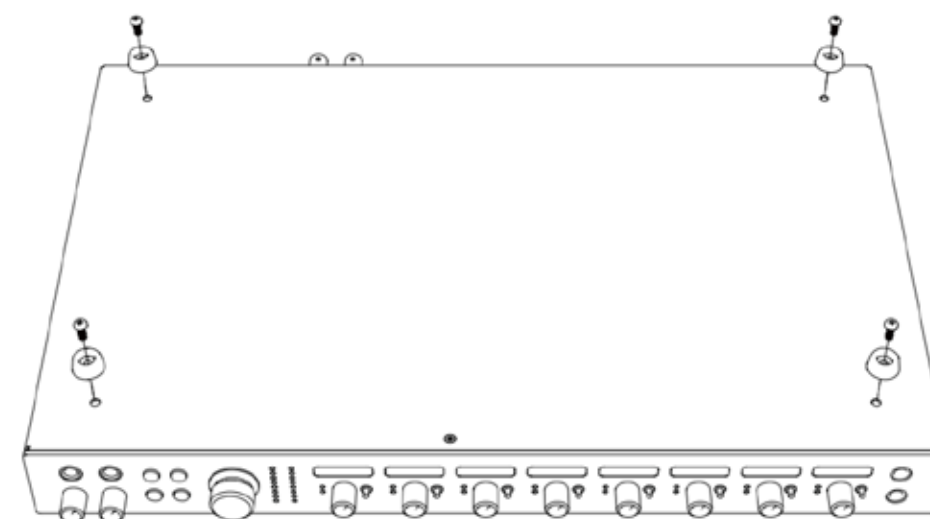
上記の設定は最も一般的な構成を網羅していますが、網羅的ではありません。
クロッキングに関する詳細については、audient@allaccess.co.jpまたはsupport@audient.comまでお問い合わせください。

iD48 ラックイヤーの取り付け手順

iD48をラックにインストールしたい場合は、ボックスに同梱されているラックイヤーを取り付けてください。ラックイヤーを取り付けると、iD48は標準の1RUユニットになります。

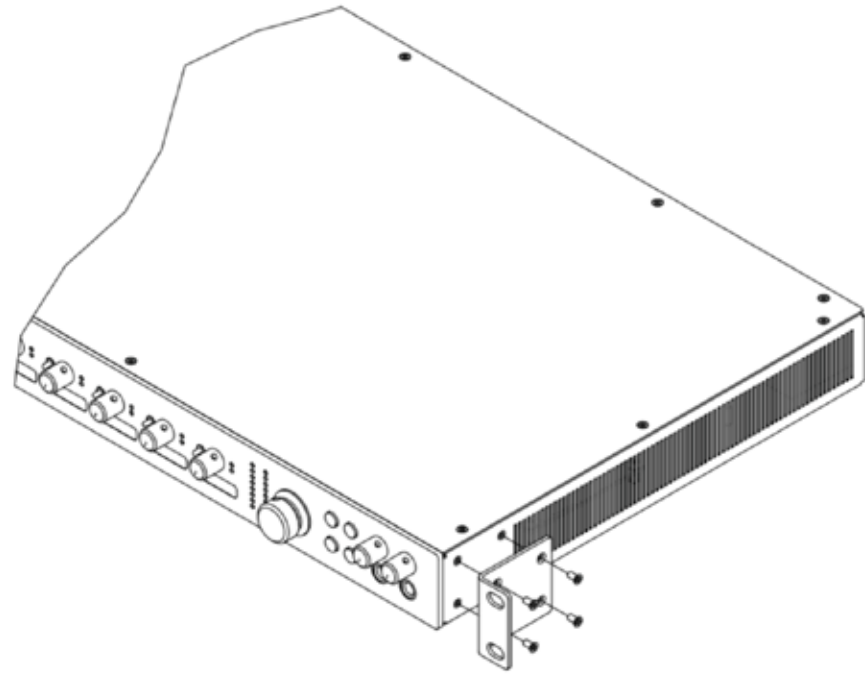
まず、ユニットの底面からゴム製の脚を取り外します。

図のように、ドライバーを使用して各脚の中央からプラスネジを取り外し、脚をシャーシから持ち上げます。



これで、ラックイヤーをユニットの側面に取り付けることができます。

ユニットの各側面には、4つのネジ穴があります。ラックイヤーをこれらの穴に合わせ、ドライバーで付属の4つのM3 Poziネジをネジ穴にねじ込み、図のようにラックイヤーを固定します。



もう一方のラックイヤーでも同じ手順を繰り返します。
ラックイヤーを装着したら、iD48をラックにインストールできます。

ラック内使用での安全項目

iD48には、ケーブル接続を考慮して1Uの垂直ラックスペースと最低400mmのラック奥行きが必要です。
重量は3.9kgですから、スタジオなどの固定設置の場合は、フロントパネルの取り付けネジ4本で十分な強度が得られます。取り付け位置のフロントパネルの奥行きは3mmです。

iD48は大きな熱を発生せず、自然対流の冷却で十分です。周囲温度が35°Cを超える場所での使用はお勧めしません。換気は筐体の両側にあるスロットから行いますから、これらを遮るものがないようにしてください。

パワーアンプなど、大きな熱を発生する他の機器の真上または真下に iD48を取り付けしないでください。

ソフトウェアの概要

iD Software ミキサーアプリケーション



入力チャンネル - チャンネルタイプ

iD Software ミキサーアプリケーションには、3種類の入力チャンネルがあります。

マイク入力

これらは、iD48の8つのアナログ入力からの信号が表示される入力です。

デジタル入力

これらはiD48のオプト入力からの入力です。
iDソフトウェアミキサーアプリケーションに表示されるデジタル入力の数、デジタル入力タイプ（S/PDIFまたはADAT）と、使用されているサンプルレートによって異なります。

DAWリターン

これらはDAWから再生される信号です。iD48には10個のDAWリターンチャンネルがあり、複数のキューミックスを設定したり、ハードウェアアウトボードに送信したりできます。

これらの3種類のチャンネルを使用して、メインモニターミックスと最大4つの追加キューミックスが構築できます。

iD Software ミキサーアプリケーションは、iD48のモニタリングのみを制御することに注意してください。iD Softwareミキサーに加えられた変更は、DAWまたはオーディオソフトウェアのレベルには影響しません。



チャンネルの特徴

チャンネル名

チャンネル名をダブルクリックすると、iD Software ミキサーを整理するために名前を変更できます。例えば、チャンネルに「キック」や「スネア」という名前を付けることができます。

入力コントロール

High Pass Filter/ハイパス フィルター - チャンネルの入力でアナログ ハイパスフィルターを有効にします。ハイパスフィルターのカットオフ周波数は100Hzです。録音からランブルや室内のノイズを除去するのに最適です。

Phase Flip/位相反転 - 信号極性を180°反転して位相キャンセルを防止します。ギターアンプの背面やスネアドラムの下側をマイク録音する場合に便利です。

Pad/パッド - パッドコントロールは、アナログパッド回路で入力信号レベルを10dB下げます。これは、非常に高い信号レベルを録音する際、クリッピングの発生を防ぐために信号レベルを下げるのに役立ちます。

Boost/ブースト - 静かなソースを録音する際に、入力信号を10dBデジタル増幅されます。これは、DAWに送られるオーディオにも影響します。

ADC Path /ADC パス - このドロップダウンメニューでは、マイク、ADCダイレクト、マイクインサートのADCパス設定が選択できます。

これらのADCパス設定の詳細については、このマニュアルのハードウェアセクションを参照してください。

Pan Control/パンコントロール

メインモニターミックスまたはキューミックスでオーディオを左、右、またはその間の任意のポジションに送ることができます。

Stereo Grouping

隣接する2つのチャンネルを1つのステレオチャンネルにグループ化し、1つのフェーダーで両方のチャンネルレベルが制御できます。チャンネルがステレオグループにされると、パンは自動的にハードレフトとハードライトに設定されます。

Solo/ソロ

ソロ ボタンは、現在ソロになっているチャンネル以外のすべてのチャンネルをミュートします。複数のチャンネルを同時にソロにすることもできます。

Mute/ミュート

ミュートボタンは、（オンになっている間の）チャンネルからのオーディオ出力を停止します。

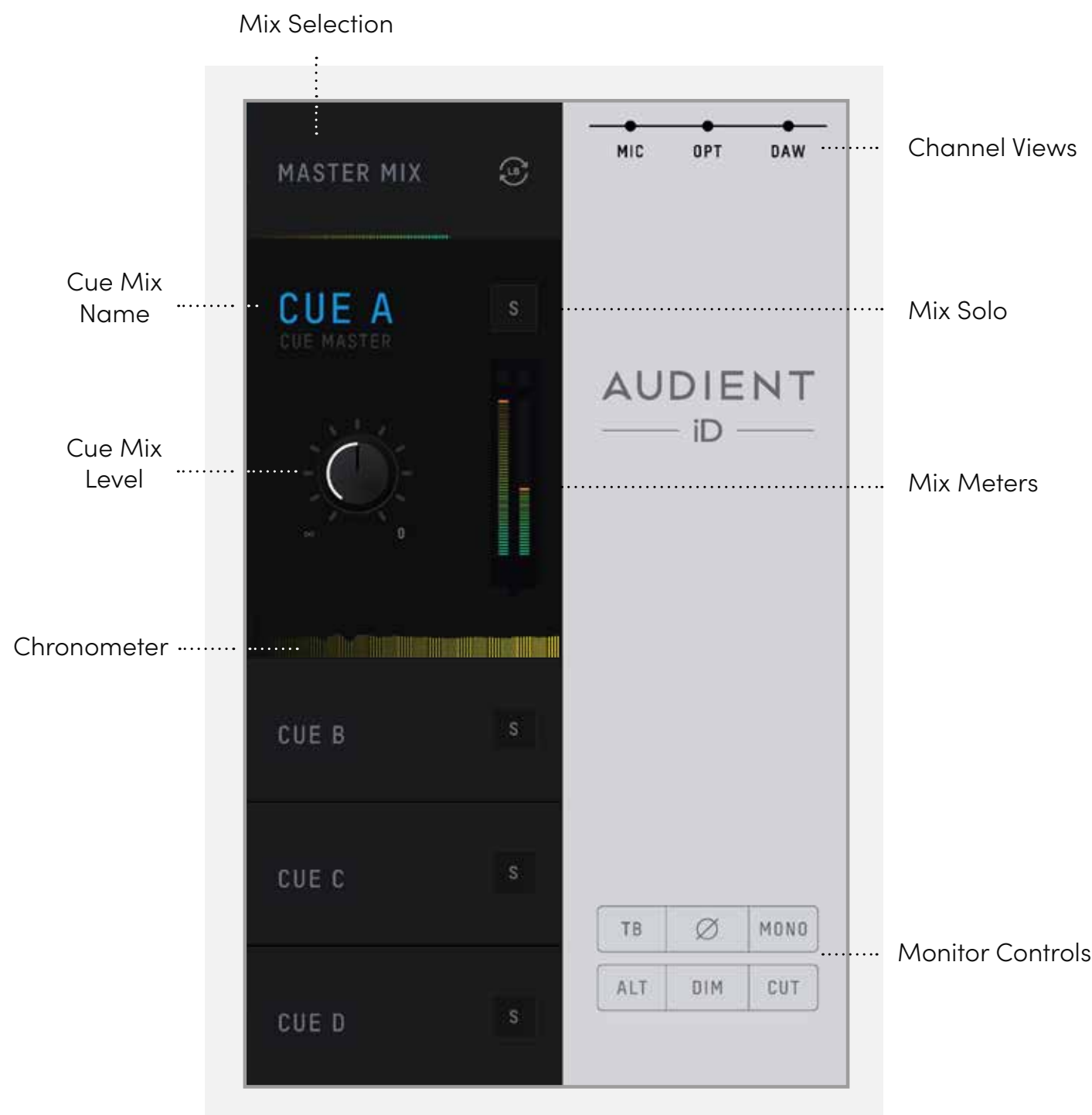
Fader/フェーダー

フェーダーは、現在選択されているミックスに送信される信号量を制御します。これは、-inf dB から +6dB の間で設定できます。

Meter/メーター

メーターには現在の信号レベルがdBFSで表示されます。信号レベルが 0dBFSを超えると、ピークインジケーターが赤く点灯してピークを示します。ピークインジケーターはクリックするとオフになります。Altキーを押しながらクリックすると、すべてのピークインジケーターをオフにすることもできます。

マスターセクションの機能



チャンネルの特徴

Mix Selection / ミックスの選択

ミックスタブの1つをクリックすると、そのミックスに変更を加えることができます。ミックスを選択すると、そのミックスの追加のコントロールが表示されます。

Cue Mix Name / キュー ミックス名

キューミックス名をダブルクリックすると、キューミックス名を変更できます。たとえば、2人のバンドメンバーのミックスを作成する場合は、「ドラマー」と「ギタリスト」という名前を付けることができます。

Mix Solo / ミックス ソロ

ソロボタンを使用すると、各キューミックスをモニターで試聴できます。

Mix Solo / ミックス ソロ

ソロボタンを使用すると、各キューミックスをモニターで試聴できます。

Mix Meters / ミックス メーター

ミックスメーターには、選択したミックスのマスター信号レベルが表示されます。

Chronometer / クロノメーター

クロノメーターを使用すると、現在の信号レベルだけでなく、数秒前の信号レベルも確認できます。

これは、特定のキューミックスで突然発生する大きなトランジェントを追跡したり、ミックスに変更を加えたときに時間の経過に伴うレベルの変化を監視したりするのに最適です。

Channel Views / チャンネル ビュー

これらの3つのボタンを使用すると、ミキサーに表示される3つのチャンネルタイプを制御できます。例えば、特定のプロジェクトでデジタル入力を使用していない場合は、「OPT」をクリックしてオプトチャンネルを非表示にすることができます。

Monitor Controls / モニター コントロール

これらの6つのボタンは、iD48のモニターコンローラー機能のさまざまな側面を制御します。各コントロールの機能は次のとおりです。

- **TB (Talkback / トークバック)**

トークバックボタンはトークバックのオン/オフを切り替えます。トークバックとその各種設定に関する詳細は、このマニュアルの「システムパネル」セクションに記載されています。

- **ø (Phase Flip / 位相反転)**

このスイッチを押すと、ステレオ フィールドの片側の位相が反転します。このスイッチを押すと、モノボタンもトリガーされます。これにより、モニタリングからセンター部が削除され、ミックスのパン要素を聞くことができます。

- **Mono / モノラル**

モノラルボタンは、ステレオ出力をモノラルにまとめます。これを使用すると、ミックスのモノラル互換性をすばやく確認して、ほぼどこでも素晴らしいサウンドが得られることを確認できます。

- **ALT**

モニターパスを2番目のモニターセットにすばやく切り替えて、ミックスがさまざまなスピーカーでどのように伝わるかを確認できます。

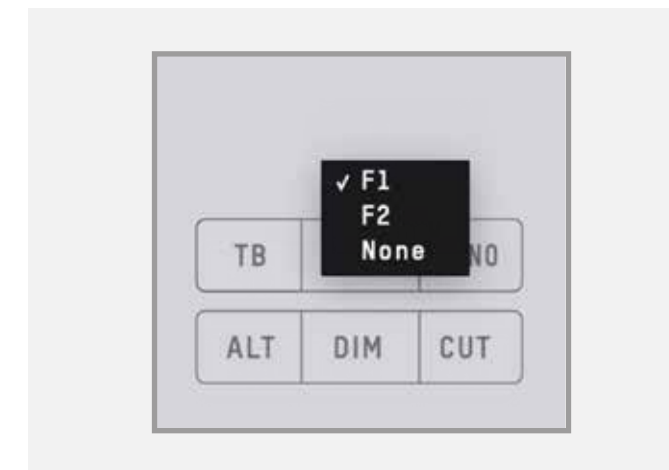
システムパネルで、「ALT」モニターコントロールがどの出力に切り替わるかが選択できます。

- **DIM**

出力レベルをあらかじめ設定されたレベルだけ下げます。これは、通話がかかってきたり、セッション中に誰かとすぐにチャットする必要がある場合に最適です。

- **Cut**

現在、iD48のメインミックスに送られているすべての信号をカットします。

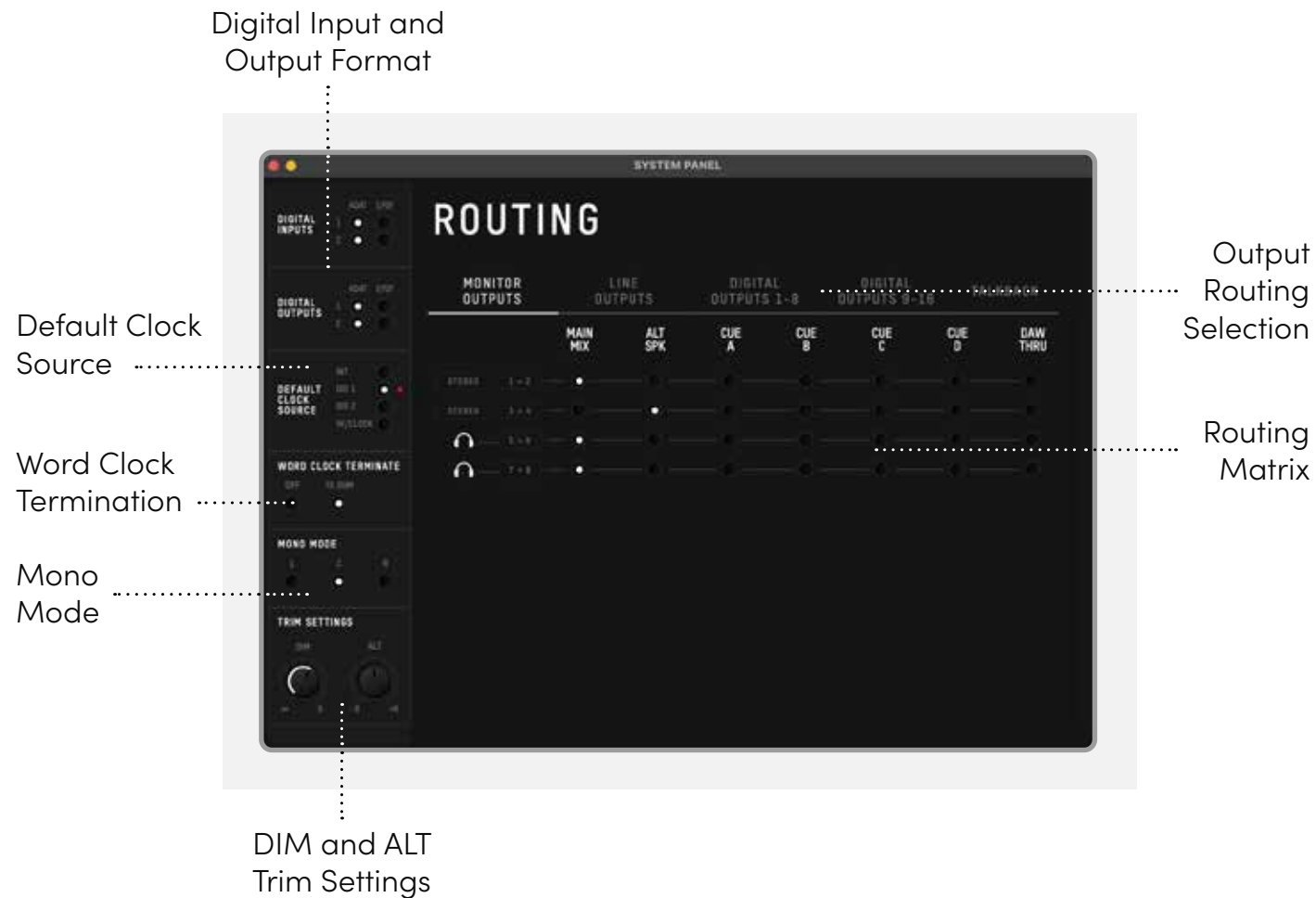


F キーの割り当て

iD ソフトウェア ミキサー アプリケーションのさまざまな機能を iD48 のファンクションキーに割り当てると、ボタンをクリックするだけでモニタリングをすばやく制御できます。

モニターコントロールをFキーに割り当てするには、コントロールを右クリックしてFキーを選択します。

システムパネルの機能



システムパネルの機能

デジタル入出力フォーマット

このオプションでは、オプト入力と出力でADATまたはS/PDIFデジタルフォーマットを選択できます。S/PDIFを使用する場合、各オプトポートは2チャンネルのオーディオを処理できます。ADATを使用する場合は、各オプトポートは44.1kHzまたは48kHzで8チャンネルのオーディオ、または88.2kHz または 96kHzで4チャンネルのオーディオを処理できます。

必要に応じて、1つの入力/出力をADATに設定し、他の1つをS/PDIFに設定できます。

優先クロックソース

クロックソースは、内部クロック、2つのオプト入力の1つ、またはワードクロック入力から選択できます。クロックソースの選択に関する詳細については、このマニュアルのクロックセクションを参照してください。

外部クロックソースを使用する場合、セレクターの横にあるインジケータに、その入力クロックの現ステータスが表示されます。

- 赤 - 入力でクロック信号が検出されません。
- オレンジ - クロック信号が検出されましたが、iD48とは異なるサンプルレートです。
- 緑 - クロック信号が検出され、正しいサンプルレートです。

外部クロックソースとの確実な同期を確保するには、インジケータが緑色になっている必要があります。

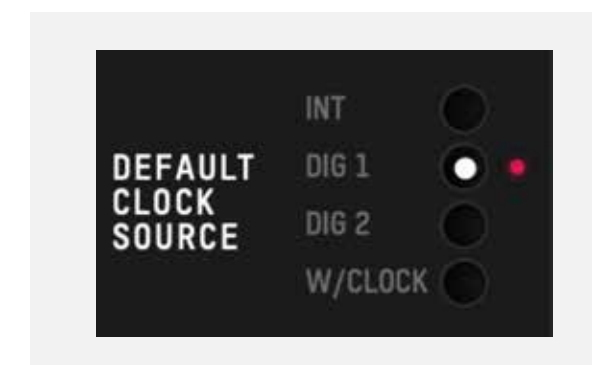
赤色のインジケータが表示されている場合は、クロックソースの物理的な接続を確認し、正しいデジタル形式が選択されていることを確認してください。オレンジ色のインジケータが表示されている場合は、外部デバイスまたはiD48のサンプルレートを調整して、サンプルレートが一致するように確認してください。

ワードクロック終端

このコントロールを使用すると、iD48のBNCワードクロック入力の75Ω終端を有効または無効にできます。ワードクロック終端の詳細と、これが必要になるタイミングについては、このマニュアルのクロッキングセクションを参照してください。

モノラルモード

iD48のモノラル機能が有効になっている場合、このオプションはモノラル信号を左、右、または両方のモニターに送信するかどうかを制御します。



Dimトリム レベル

iD48のDim機能がオンになっている場合、このコントロールでレベルをどの程度下げるかを定義します。

ALT スピーカー トリム レベル

iD48がALTスピーカーモードに切り替えられたときに、レベルの上下を定義します。これは、異なるスピーカーブランド間のレベルのバランスを取るために使用します。

出力ルーティングの選択

モニター出力、ライン出力、デジタル出力、またはトークバックチャンネルのルーティングマトリックスを開きます。

Routing Matrix / ルーティング マトリックス

ルーティングマトリックスでは、次のオプションからiD48の各出力のオーディオソースが制御できます。

- **Main Mix / メイン ミックス** - iD ソフトウェアミキサーのマスターミックスから信号を取得します。これは、一般的な再生で通常使用されます。
- **ALT** - マスターミックスから信号を取得しますが、Altスピーカーモードがアクティブな場合のみに使用されます。

- **Cue A, B, C & D** - iD ソフトウェアミキサーを使用して作成できるキューミックスから信号を取得します。ハードウェアのボリュームコントロールはこれらのミックスには影響しません。キューには個別のトリムがあり、メインミキサーウィンドウでキューミックスが選択されているときに調整できます。
- **DAW THRU** - DAW に表示されるとおりに出力へルーティングできます。たとえば、アナログ出力 1+2 を DAW THRU に設定すると、DAW が出力 1+2 へ送るすべてアナログ出力 1+2 に直接送信されます。

DAW THRUでは、チャンネルはボリュームコントロールをバイパスし、オーディオはフルスケール出力されることに注意してください。この出力がインライン減衰のないモニターセットに送信されると、非常に大きな音になる場合があります。唯一の例外はヘッドフォン出力で、DAW THRUモードでもボリュームコントロールが機能します。

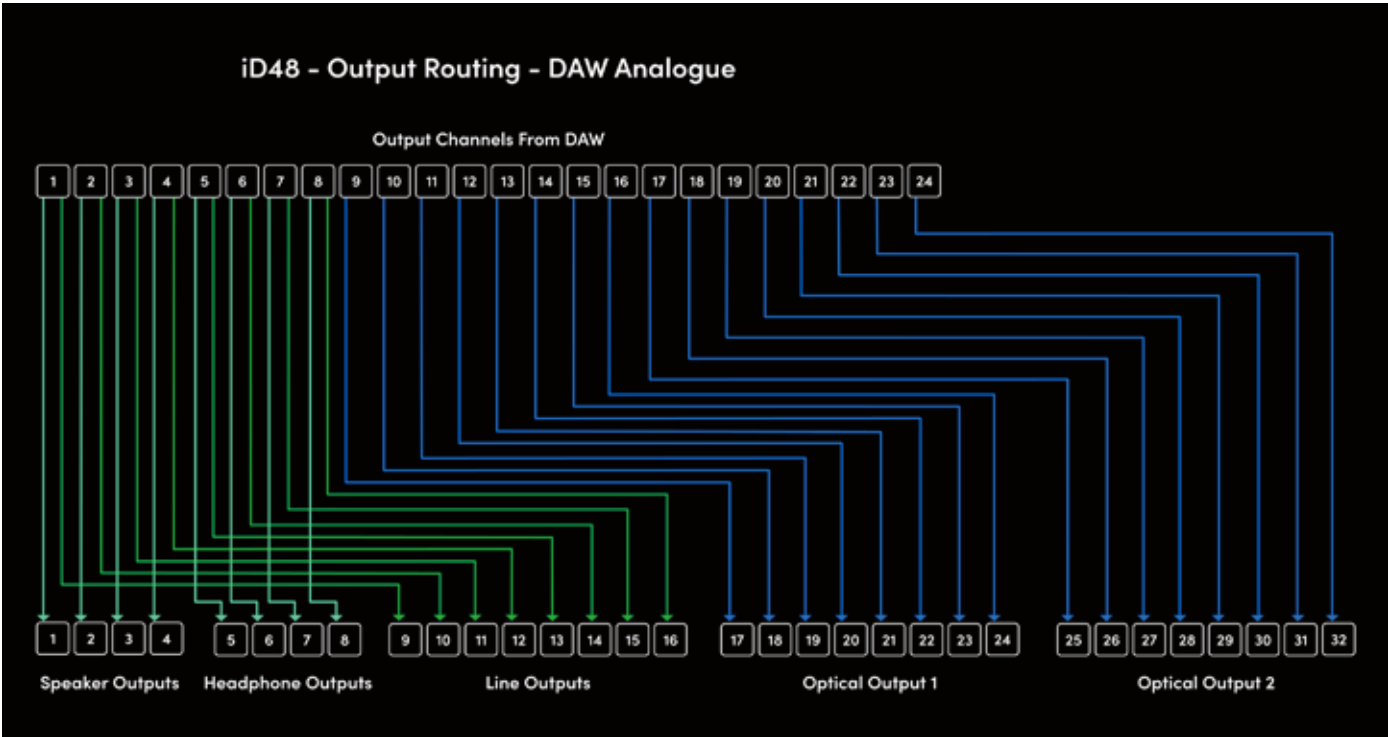
ライン出力 ルーティング マトリックス

一般的なメインミックス、ALT スピーカー、CUE ミックスオプションに加えて、ライン出力のルーティングマトリックスには、DAW THRUの代わりにDAW アナログとDAW ADATという2つの追加オプションが含まれており、さらなる柔軟性を提供します。



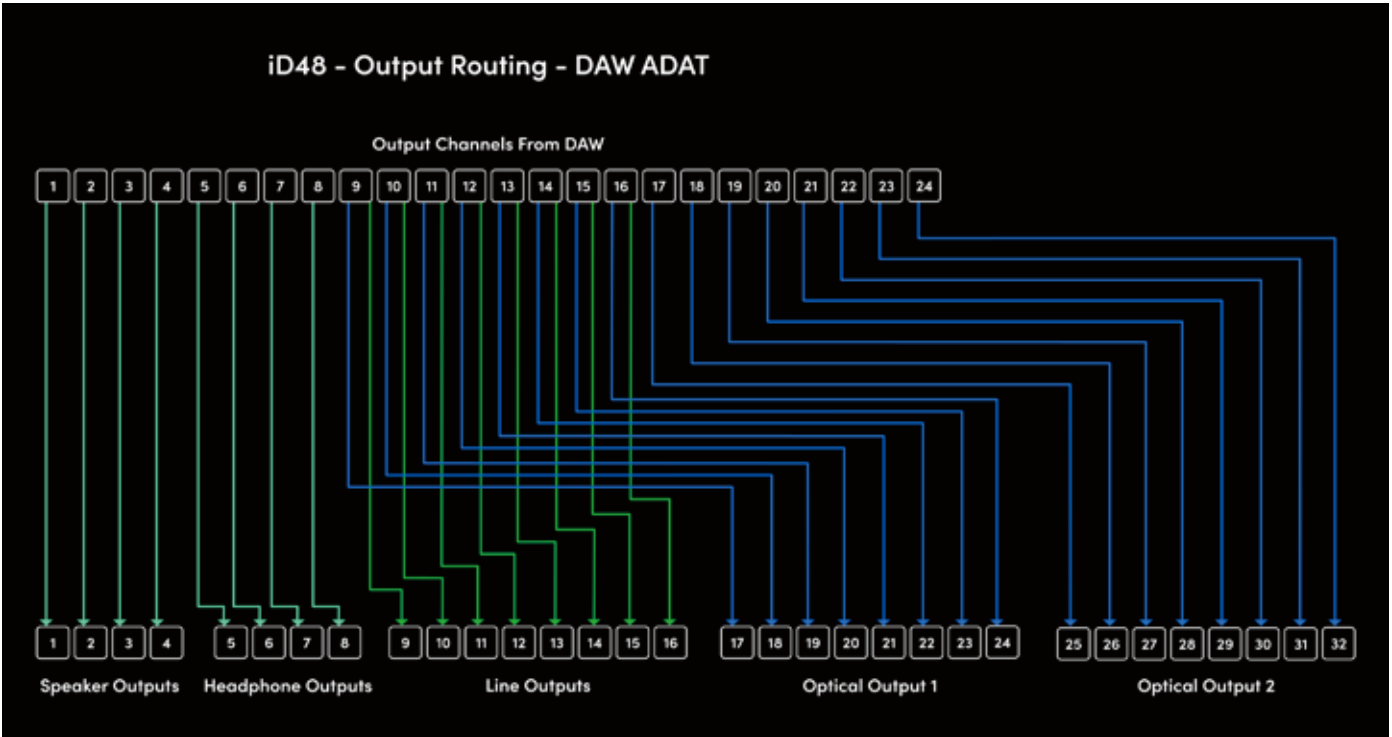
DAW Analogue / DAW アナログ

DAW アナログに設定すると、ライン出力 1 ～ 8 はそれぞれ出力チャンネル 1 ～ 8 から供給されます。



DAW ADAT

DAW ADATに設定すると、ライン出力 1 ～ 8 はそれぞれ出力チャンネル 9 ～ 1 6 から供給されます。



各ライン出力チャンネルを別々に割り当てることも可能です。例えば、ライン出力 1+2 を DAW アナログに設定して出力チャンネル 1+2 から供給し、同時にライン出力 3+4 を DAW デジタルに設定して出力チャンネル 11+12 から供給することができます。

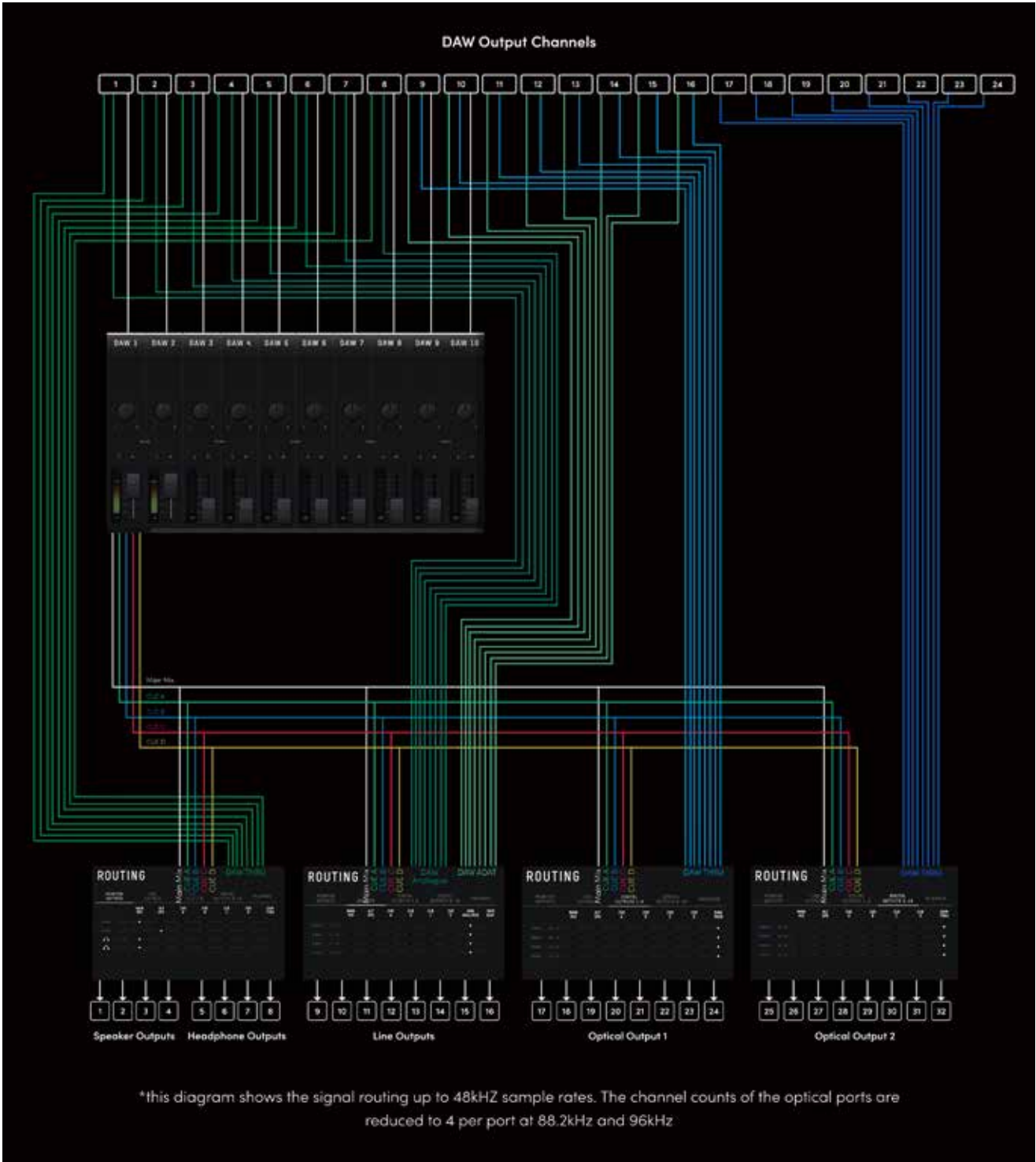
各入力チャンネルには独立したマイクモード設定もあるため、外部ハードウェア機器をセットアップに組み込む際にルーティングの柔軟性が大幅に高まります。

例えば、柔軟なルーティングにより、iD48のライン出力は、コンプレッサーやリバーブなどのハードウェアエフェクトをDAWにインサートとして追加するのに最適です。ハードウェアインサートのセットアッププロセスはDAWによって異なるため、このプロセスの説明は本マニュアルの範囲外です。詳細については、DAWのドキュメントを参照することをお勧めします。

出力ルーティング信号フロー図

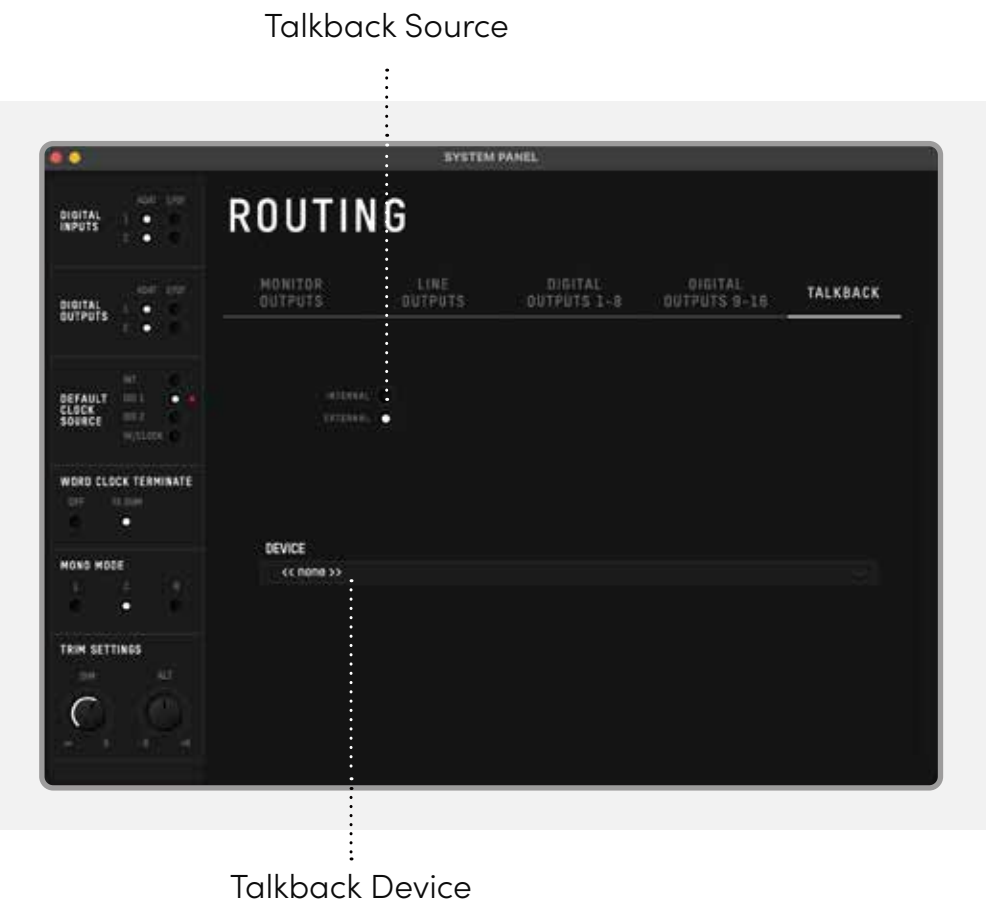
下図は、DAWのiD48の出力チャンネルがソフトウェアミキサーとルーティングマトリックスを介して、出力にルーティングされる様子を示しています。

ルーティングマトリックスを使用すると、ソフトウェアミキサーからのミックスの1つ、または、DAW THRU、DAWアナログ、およびDAWデジタル機能を使用した直接送信のいずれかを介して、特定の出力ヘルーティングするソースが選択できます。



Talkback / トークバック

iD48のトークバック機能は、マイクからの信号をキューミックスに送れます。つまり、トラッキング中に演奏者やアーティストと直接コミュニケーションを取り、フィードバックや指示を与えることができます。トークバック設定は、システムパネルのトークバックタブから調整できます。



Talkback / トークバック

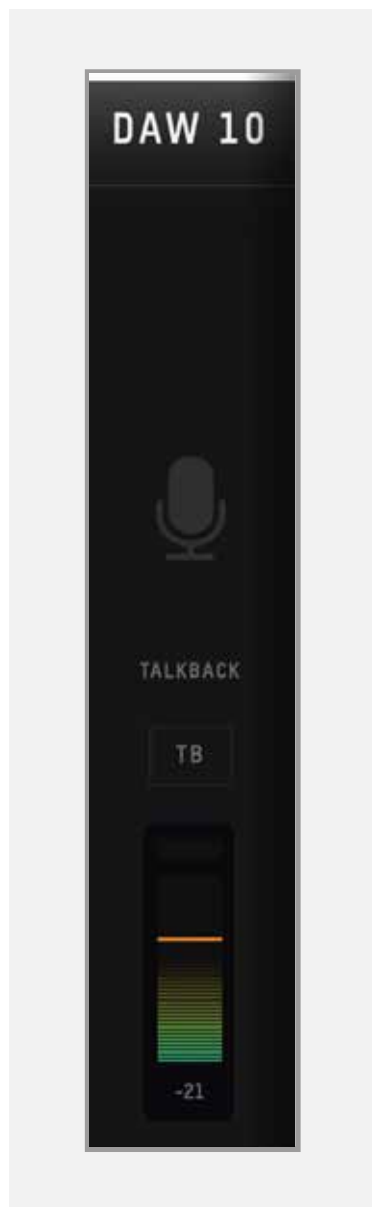
トークバックソースは、トークバック入力をiD48の内部入力の1つから、またはホストコンピューターに接続された外部デバイス（内蔵マイクやUSBマイクなど）から取得できます。

トークバックチャンネルとして内部入力を選択すると、iD ソフトウェアミキサー内の対応するチャンネルがトークバックチャンネルに変更され、中央にTBボタンが表示されます。

外部デバイスを選択したい場合は、使用する外部デバイスを選択するドロップダウンメニューが表示されます。外部デバイスを使用すると、トークバック信号がチャンネルDAW 10に表示されます。

トークバックは、そのチャンネルのTB ボタン、マスターセクションのTB ボタン、または、TB機能に割り当てられたFキーのいずれかで、オンまたはオフできます。

トークバックは、メインスピーカーから再生されないように、CUEミックスにのみ送られます。したがって、フェーダーはメインミックスではなく、CUEミックスのトークバックチャンネルにのみ表示されます。



ミキサープリセットの保存と読み込み

セッション中に iD Software ミキサーをすばやく設定できるように、さまざまなプリセットを保存して読み込むことができます。これは、さまざまな録音シナリオ間を頻繁に移動する場合に便利です。

ミキサープリセットは、次の2つの方法で保存および読み込むことができます。

- ファイルメニューで、保存または開くを選択します。
- 標準のキーボードショートカットを使用する：

保存： Mac - **Cmd + S**
Windows - **Ctrl + S**
読み込み： Mac - **Cmd + O**
Windows - **Ctrl + O**

プリセットの保存

プリセットを保存するには、ミキサーを希望どおりに設定するだけです。次に、上記の説明に従って、**[File/ファイル] > [Save/保存]**を選択します。すると、iD Software ミキサー ウィンドウに**[Save mixer Configuration/ミキサー構成を保存]**ダイアログが表示されます。



プリセットの名前を入力して、**「Save/保存」** ボタンを押すだけです。

プリセットファイルをエクスポートして友人に送信したり、DAWセッションファイル内に保存して後で簡単に呼び出せるようにしたりすることもできます。これを行うには、**[Save/保存]**画面の下部にある**[Export Mixer Configuration/ミキサー構成のエクスポート]**を選択します。

ミキサー設定の読み込み

以前に保存したプリセットを読み込むには、**[File/ファイル] > [Open/開く]**を選択して**[Load/読み込み]**画面を表示します。



以前に保存した設定がリストに表示されます。使用したい設定を選択し、**[Load/ロード]**をクリックします。

ウィンドウの下部にある**[Load From File/ファイルからロード]**を選択して、コンピューターのファイルシステムから直接ミキサー設定を開くこともできます。

オーディオ ループバック

iD48のソフトウェアミキサーにはループバックする機能があります。専用のループバックチャンネルを使用して、コンピューター上のさまざまなアプリケーションから、オーディオを録音またはストリーミングが可能です。

iDソフトウェアミキサーのさまざまなソースから選択し、ループバックチャンネルに供給できます。

ループバックソースは入力チャンネル23+24に送られ、オーディオソフトウェアまたはDAWでキャプチャできるようになります。ループバックソースとして「ADAT15+16」を選択しない限り、入力チャンネル23+24も使用するADATチャンネル15+16が上書きされることに注意してください。

以下に示すように、iDメニューで「Input Routing/入力ルーティング」をクリックすると、ループバックソースを選択できます。

On macOS:



On Windows:

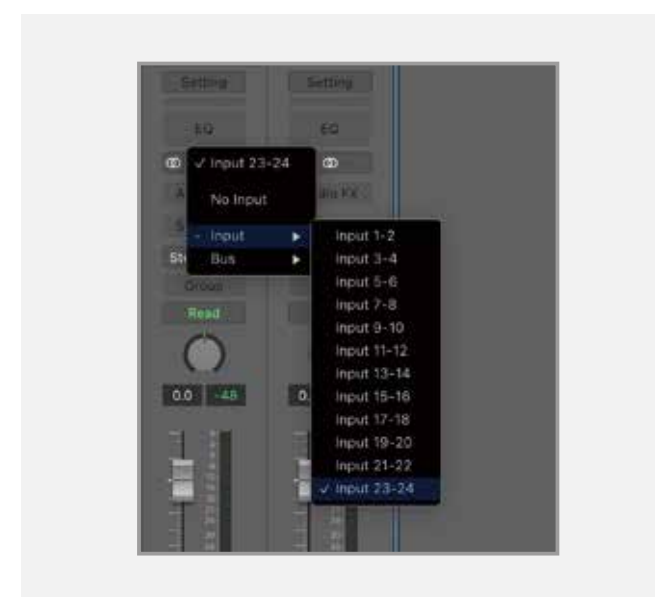


メニューから選択できるさまざまなソースは次のとおりです。:

- **ADAT 15+16** - ループバックを無効にし、ADAT 入力 15+16 を使用します。
- **DAW 1+2** - iD48 の出力 1+2 に送信されるすべてのオーディオ
- **DAW 3+4** - iD48 の出力 3+4 に送信されるすべてのオーディオ
- **DAW 5+6** - iD48 の出力 5+6 に送信されるすべてのオーディオ
- **DAW 7+8** - iD48 の出力 7+8 に送信されるすべてのオーディオ
- **DAW 9+10** - iD48 の出力 9+10 に送信されるすべてのオーディオ
- **Master Mix** - iD ソフトウェア ミキサーのメイン ミックス タブで作成されたオーディオ ミックス
- **Cue A** - iD ソフトウェア ミキサーのキュー A タブで作成されたオーディオ ミックス
- **Cue B** - iD ソフトウェア ミキサーのキュー B タブで作成されたオーディオ ミックス
- **Cue C** - iD Software Mixer の CUE C タブ
- **Cue D** - iD Software Mixer の CUE D タブで作成されたオーディオ ミックス

ループバック入力の使用

オーディオソフトウェアでループバックミックスを録音またはストリーミングするには、オーディオソフトウェアでループバックチャンネルを入力チャンネルとして選択するだけです。使用しているソフトウェアによっては、ループバック1+2または入力23-24として表示されることがあります。たとえば、下の画像は、Logic Pro Xでループバック入力を選択する方法です。



他のソフトウェアでも同様のプロセスが使用できます。オーディオソフトウェアの入力を調整する方法がわからない場合は、ソフトウェアのユーザーマニュアルを参照してください。Windowsでは、システム設定でオーディオデバイスをアナログ1+2からループバック1+2に調整する必要がある場合もあります。

注意：一部のソフトウェアでは、使用している入力チャンネルを調整できず、デフォルトでチャンネル1+2に限定されます。一部のソフトウェアのこの制限により、チャンネル11+12を選択できないため、このソフトウェアでループバックを使用できなくなります。

ループバックソースの録音/ストリーミング

録音/ストリーミングソフトウェアでループバック入力をオーディオソースとして選択した後、iDソフトウェアミキサーを使用してループバックミックスが設定できます。

最初のステップは、ループバックストリームに使用するソースを決定することです。

コンピューターからのオーディオとマイク/楽器を1つのミックスにする場合は、メインミックスまたはキューミックスのいずれかを選択するのが最適です。iDソフトウェアミキサーのフェーダーを用いて、複数のチャンネルを同じミックスへ送れるためです。

例えば、以下では、CUE A ミックスがループバックソースとして使用され、マイク1とDAW1+2がCUE A ミックスへ送られていることがわかります。この設定でループバック入力を録音すると、マイクチャンネルとコンピューターの再生の両方が1つのステレオチャンネルで聴こえます。



それ以外の場合、マイク信号なしでコンピューターからのオーディオのみをループバックしたい場合は、DAW チャンネルの1つだけ使用できます。

ループバックソースとしてチャンネルまたはミックスを選択すると、そのチャンネル/ミックスに小さなループバックアイコンが表示されるので、一目見るだけでループバック機能がどのソースから送られているかが確認できます。



出力チャンネルの調整

ループバックミックスを設定するときは、通常、DAW 1+2に送られるメインモニターミックスとは別に、コンピューターオーディオを DAW 3+4、DAW 5+6、DAW 7+8、または DAW 9+10 へ送るように設定することをお勧めします。

ほとんどの DAW ソフトウェアでは、新しい出力センドを作成したり、出力チャンネルを調整したりすることができます。これを行うプロセスはソフトウェアによって異なりますので、出力チャンネルの調整方法については、選択したソフトウェアのユーザーマニュアルを参照することをお勧めします。

出力チャンネルを調整するオプションがないアプリケーション（メディア プレーヤー、ビデオ通話など）では、システム設定でこれを調整する必要がある場合があります。

On macOS:

Finder を開き、**アプリケーション > ユーティリティ > Audio MIDI 設定**に移動します。Audio MIDI 設定ユーティリティで、デバイスのリストから iD48を選択します。**[Output Tab/出力タブ]** を選択し、**[Configure Speakers/スピーカーの構成]** をクリックします。次に、iD48のどのチャンネルを左右の出力にするか選択できます。チャンネル 3+4 は DAW 3+4 に関連し、チャンネル 5+6 は DAW 5+6 に関連します...



On Windows:

「Start/スタート」メニューを開き**「Settings/設定」**を選択します。設定で、**「システム > サウンド」**に移動します。**「Output Device/出力デバイス」**ドロップダウンメニューを使用して、出力に使用するチャンネルを選択できます。繰り返しますが、チャンネル3+4はDAW 3+4に関連し、チャンネル5+6はDAW 5+6に関連します...など。

スタンドアロン状態を保存する

iD48はiD ソフトウェアミキサー設定を保存できるため、コンピューターに接続しなくても、iD48をスタンドアロンデバイスとして使用できます。

スタンドアロン状態をiD48に保存するには、まず iDミキサーソフトウェアをインターフェイスに保存したいとおりに設定します。次に、メニューバーで**[Setup/設定] > [Store Standalone State/スタンドアロン状態を保存]**を選択します。



（新しいスタンドアロン状態を保存すると、以前に保存された状態は上書きされることに注意してください。）

その後、iD ソフトウェアミキサーの設定が iD48 に保存されます。次にiD48の電源を入れると、保存された設定がデフォルトになります。

スタンドアロン状態はファンタムスイッチの位置を保存しません。ファンタム電源を有効/無効にするには、各チャンネルでの手動切り替えが必要です。

スタンドアロン状態の保存機能は、iD48をスタンドアロンデバイスとして使用していない場合でも、デフォルト設定を保存するのに便利です。例えば、メインスピーカーの音量レベルを保存して、iD48を起動するたびに希望の音量が呼び出されるようにすることもできます。

メニュー/タスクバーアイコン

MacOS

MacOSでは、画面の右上隅のメニューバーにiDアイコンが表示されます。これにより、iD48のさまざまな機能にすばやくアクセスできます。一部の機能は、iD48がコンピューターに接続されている場合にのみ表示されることに注意してください。



Show Mixer/ミキサーを表示

iDソフトウェア ミキサー アプリケーションを開きます。ミキサーがすでに開いている場合、このオプションはグレー表示されます。iD48がコンピューターに接続されていないと、ミキサーを開くことはできません。

About iD/iD について

iDソフトウェアミキサーアプリケーションの現バージョンに関する情報を表示します。

Visit iD Knowledge Base/iD ナレッジ ベースにアクセス

役立つ記事やFAQが掲載されているAudientヘルプデスクのブラウザーウィンドウを開きます。

Register Product/製品の登録

初期セットアップの一環として製品をまだ登録していない場合は、登録画面が開き、Audient ARCに製品を登録できます。

Check for Updates/アップデートの確認

iDアプリケーションは、AudientアップデートサーバーでiD48のファームウェアアップデートがあるかを確認します。

Set Clock Source/クロック ソースの設定

内部クロックとオプトクロックの間でクロックソースをすばやく調整できます。

Input Routing/入力ルーティング

ここでは、ループバックチャンネルにフィードする出力チャンネルまたはミックスを選択できます。

Quit/終了

iD アプリケーションを完全に閉じます。

Windows

Windows タスクバー アイコンには、MacOSメニューバーアイコンと同じオプションがすべてありますが、Windows 固有のオプションもいくつかあります。



Set Sample Rate/サンプル レートの設定

iD48の動作サンプルレートを設定します。44.1、48、88.2、96kHzの4つのオプションから選択できます。

Set ASIO Buffer Size/ASIOバッファサイズの設定

iD48のバッファサイズを16~4096サンプルの間で設定します。サイズを大きくすると、コンピュータの処理負荷が軽減されますが、レイテンシーが増加します。

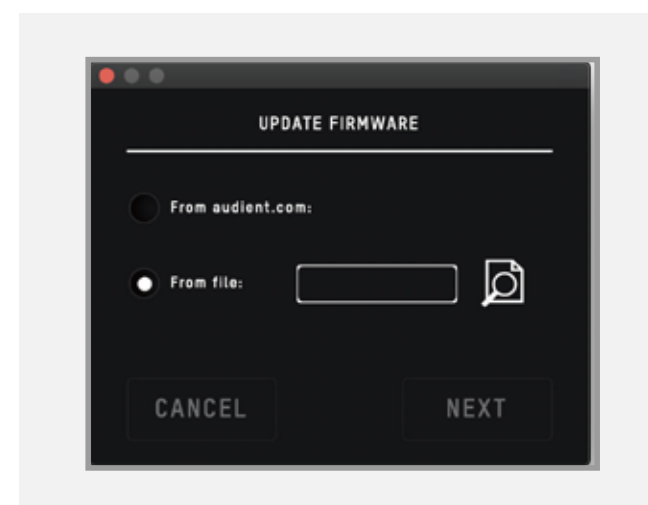
ファームウェアのアップデート

Audientは、バグの修正、互換性の向上、新機能の追加のために、iD48のファームウェアアップデートをリリースすることがあります。そのため、定期的にアップデートを確認することをお勧めします。

これは、ウィンドウメニューに移動して **【Check for Updates/アップデートの確認】** を選択すると実行できます。

iDアプリケーションは、iD48のアップデートが利用可能かを、アップデートサーバーで確認します。アップデートが利用可能であれば、最新バージョンをインストールするよう求められます。

「**Next/次へ**」をクリックすると、iD48による再生を停止するよう求められます。「**Update/更新**」をクリックすると、アップデートが開始されます。iD48は、何度か電源のオン/オフを繰り返す場合があります。



キーボード ショートカット

キーボード ショートカット インデックス

このマニュアルの各ページを参照せずにミキサーアプリケーションのすべてのショートカットを1 か所で見つけられるようにするには、次の表を参照してください。

Location	Mac	Windows	Description
Faders	Alt + Click	Alt + Click	フェーダーをユニティゲイン（0dB）にリセットします。
Pans	Alt + Click	Alt + Click	パンポットを中央位置にリセットします。
Solos	Cmd + Click	Ctrl + Click	ソロになっているチャンネルをクリックすると、すべてのソロがクリアされます。 ソロになっていないチャンネルをクリックすると、他のすべてのソロが上書きされます（ソロ専用）。
Meters	Alt + Click	Alt + Click	ピークホールドインジケータースをクリックすると、すべてのクリップインジケータースがクリアされます。
System Panel	Cmd + S	Ctrl + S	ミキサー設定を保存
	Cmd + O	Ctrl + O	ミキサー設定を読み込む
View Modes	Cmd + 1	Ctrl + 1	マイク/ライン入力を表示
	Cmd + 2	Ctrl + 2	光 (デジタル) 入力を表示
	Cmd + 3	Ctrl + 3	DAW ミックス入力を表示
	Cmd + 4	Ctrl + 4	システム パネルを表示

最新の iD アプリケーションの更新については、下記URLからサイトをご覧ください。

<https://audient.com/products/audio-interfaces/id48/overview/>

通知なしにショートカットが追加される場合があります。

DAW セットアップ



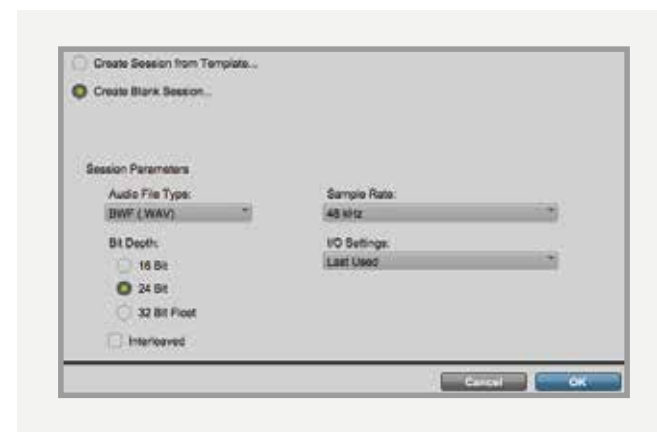
Pro Tools セットアップ

Pro Tools と使用する場合

Windows を使用する場合は、10ページのインストール手順を確認してください。

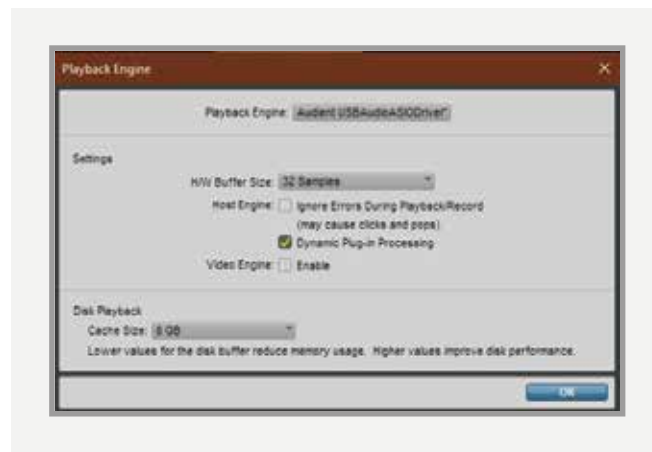
iD48を接続した状態でPro Toolsを起動し、使用するサンプルレートで新しいセッションが作成されていることを確認します。

Windowsを使用している場合は、プロジェクトを開く前に、iDシステムトレイでレイテンシーとバッファースizeの設定を確認してください。セッションの途中でこれらを変更すると、Pro Toolsの再起動が必要です。



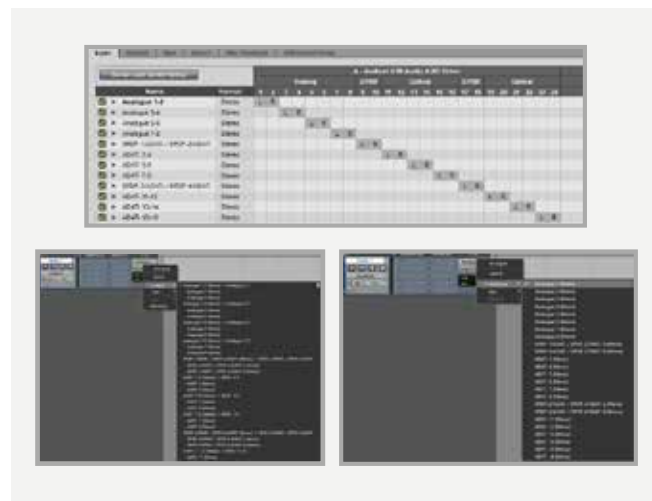
プレイバック・エンジン

[Go to Setup/設定] > [Playback Engine/再生エンジン...] へ移動し、iD48 がアクティブな再生デバイスとして設定を確認します。



I/O セットアップ

[Go to Setup/設定] > [I/O...] へ移動して入力と出力にラベルを付け、iD48 が Pro Tools との間で24個の入力と 24個の出力を正しく伝えていることを確認します。



※ Pro Toolsの設定に関する詳細は、Avid の取扱説明書をご覧ください。

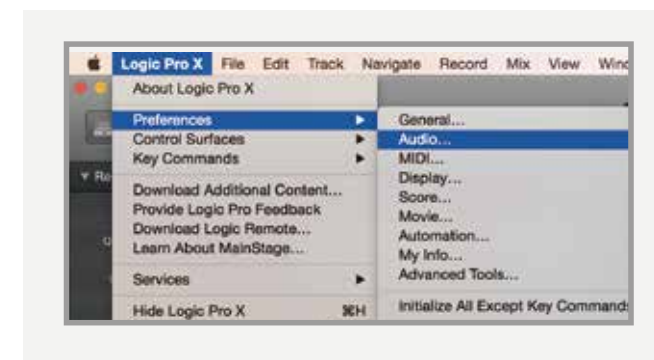


Logic Pro セットアップ

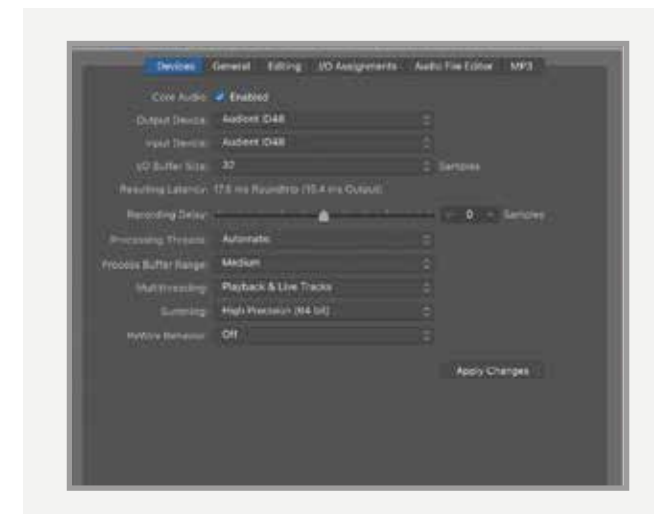
Logic Proと使用する場合

このマニュアルの9ページ以降に記載されている手順に従ってiD48が正常にインストールされたら、Logic Pro を起動して次の項目を確認します。

Logic Pro > Preferences/環境設定 > Audio/オーディオ



iD48がアクティブなオーディオデバイスとして選択されていることを確認し、バッファースizeを設定します（システムレイテンシーに影響します）。再生の安定性とCPUの負荷に問題がある場合は、バッファースizeを増やしてください。これは、「Overload/オーバーロード」エラーや、オーディオのポップやクリック、歪みとともに発生します。

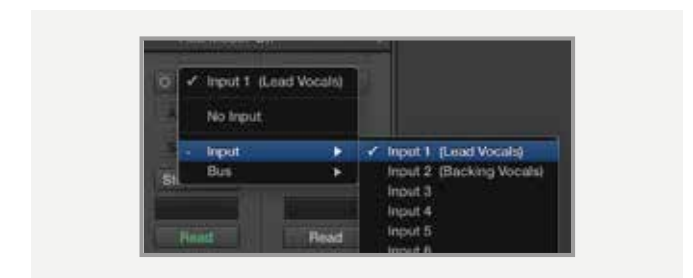


Logic Pro の設定

録音中にiDソフトウェア ミキサー アプリケーションで入力信号をモニターしている場合は、低レイテンシーDSP信号と遅延ソフトウェアモニタリング信号の間で短い遅延を伴って同じソースが2回聴こえるため、位相ずれを回避できるようにLogicのソフトウェアモニタリングを必ず無効にしてください。

I/O の割り当て

iD48のすべての入出力チャンネルは、Logicのルーティングに使用できます。ドライバーから報告される入出力は合計24個です。I/Oラベル機能で入出力チャンネル名を任意の名前に変更できます。これは整理するのに最適な方法です。



Mix/ミックス > I/O Labels / I/Oラベル

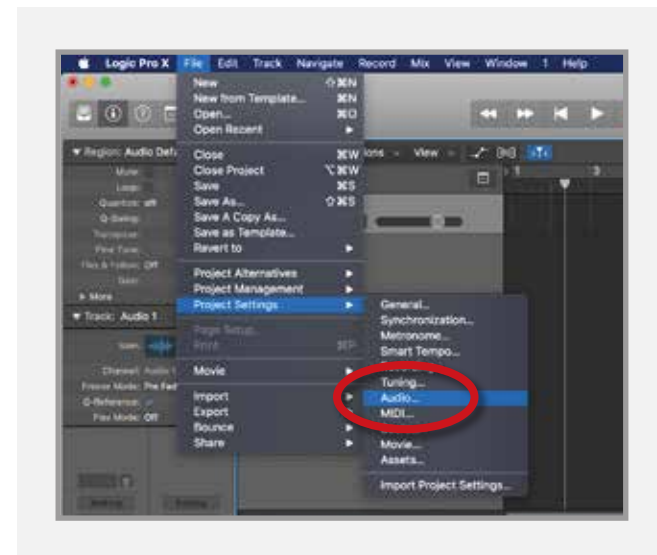


Cubase/Nuendo セットアップ

Logic Proでの操作

外部クロックソース（ADAT または S/PDIF）から iD48を同期している場合は、セッションでの録音および再生時に、Logic Pro プロジェクトが同じサンプルレートに設定されていることを確認してください。これにより、サウンドが少しシャープになったりフラットになったりすることがあります。

File/ファイル > Project Settings/プロジェクト設定 > Audio/オーディオ

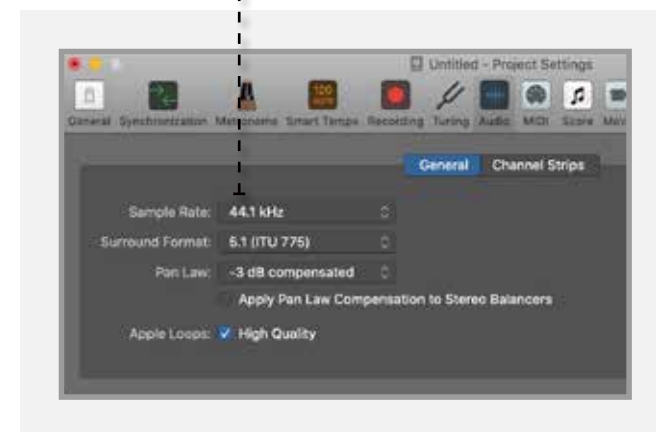


iD48の内部クロックで同期する場合、Logic Proでサンプルレートを設定すると、セッションに合わせてiD48のサンプルレートが更新されます。

システムが再クロックされるときに、少し一時停止する場合があります。これは正常です。

これは Audio MIDI 設定で確認できます。

Macintosh HD > Applications/アプリケーション > Utilities/ユーティリティ



※ Logic Pro の詳細については、Apple のユーザーマニュアルとドキュメントを参照してください。

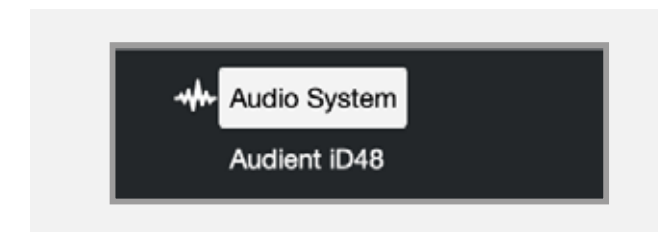
Cubase/Nuendoと使用する場合

このマニュアルの冒頭にあるインストールプロセスに従ってiD48が正常にインストールが完了したら、Cubase または Nuendoを起動して「Studio/スタジオ」メニューに進みます：

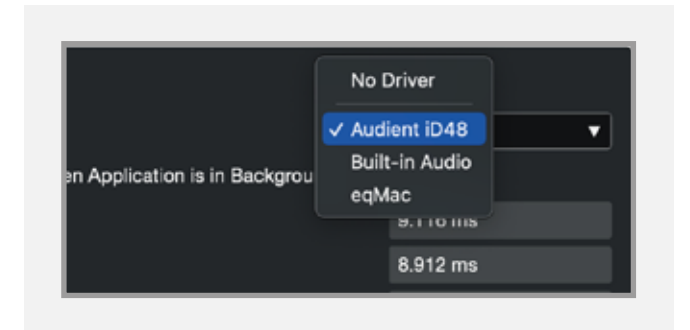
Devicesデバイス > Device Setup/デバイス セットアップ...



オプションのリストから「Audio System/オーディオシステム」を選択します。



ドロップダウンメニューで「Audient iD48」を選択し、Cubase / Nuendo が iD48デバイスドライバに対応していることを確認します。



サイドメニューで、Audient iD48 をクリックします。ここには iD48 のメイン情報が表示され、クロックソース、I/Oポートを設定できます。ADATまたは、SPDIF経由で別のデジタルデバイスからクロックする場合は、必ず [Externally Clocked/外部クロック] をクリックしてください。

I/O ポートは、デバイスパネルで名前を変更して、接続するものをより適切に表すことができます（例えば、メインモニター、ヘッドフォン）。ここで選択した名前は、トラックの入力/出力チャンネルルーティングで、I/Oを割り当てるときに表示される名前になるため、便利です。



Cubase/Nuendo セットアップ

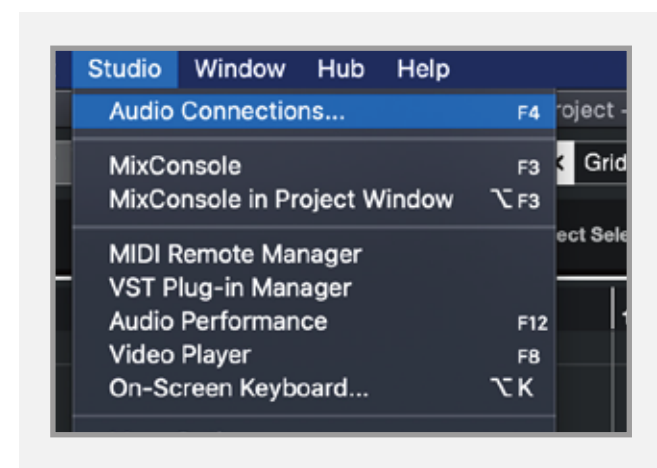
Cubase / Nuendo での操作

バッファサイズは、VSTデバイスディスプレイ内のコントロールパネルで設定できます。録音中にiD Softwareミキサーアプリケーションを入力モニタリングデバイスとして使用する場合は、CPUの負荷を軽減するために、バッファサイズをかなり高く設定しておくのが理想的です。

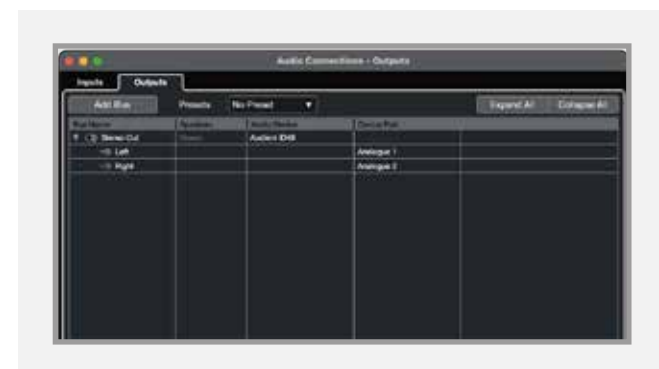


スタジオ設定パネルを閉じて、オーディオ接続パネルに移動します:

Studio/スタジオ > Audio Connections/オーディオ接続 (F4)



ここでは、すべてのバスが Cubase / Nuendo で作成され、セッション内のすべてのポートがアドレス指定可能であることが確認できます。必要に応じて、新しいバスを追加し、必要なI/Oへ割り当てます。

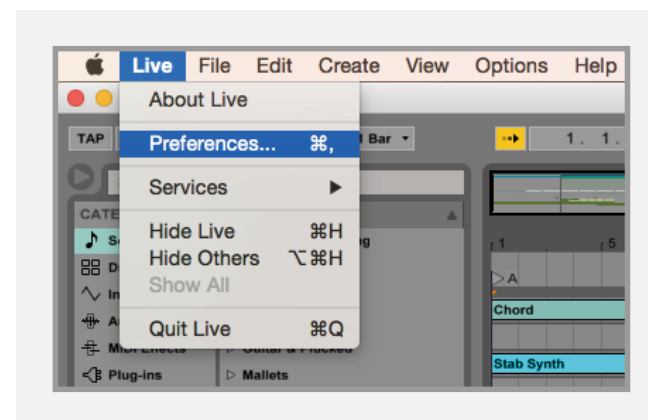


バスタイプ (モノラル/ステレオ) を設定でき、VSTコントロール ルーム セクションも使用できます。セットアップの詳細については、Steinberg のユーザーマニュアルとドキュメントを参照してください。

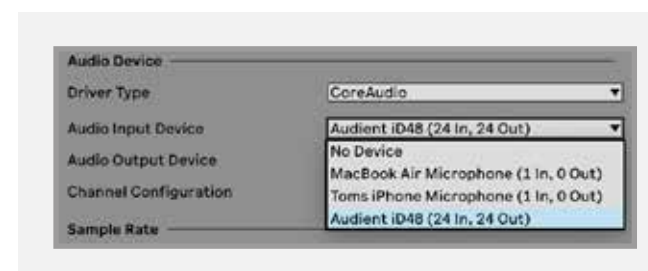
Ableton Live セットアップ

Ableton Liveと使用する場合

このマニュアルの冒頭にあるインストール手順に従ってiD48が正常にインストールされたら、Ableton Liveを起動して、**Live > Preferences/環境設定 > Audio/オーディオ**に進みます。



ここで「Audio/オーディオ」タブに移動し、iD48が再生デバイスとして割り当てられているかを確認します。



オーディオI/Oの設定の詳細については、Ableton Liveのユーザーマニュアルとドキュメントを参照してください。

Liveオーディオ設定パネルで、適切なバッファサイズが設定できます (iD Software ミキサーアプリケーションを介して録音用の入力信号をモニタリングしている場合は、この値を高く設定できます)。iD48がLiveに対して 24入力、24出力のデバイスとして報告されていることを確認してください。

必要に応じて、入力および出力構成タブを使用し、Liveでアクティブ入力として報告されるI/Oチャンネルの数 (ドライバーから) を制限できます。

これは、すべてのチャンネルが必要ない場合にCPU負荷を軽減するのに役立つ優れた機能です。



トラブルシューティング&FAQ

“本機に電源が入らない。”

USBケーブルが差し込まれていることを再度確認してください。それでも電源が入らない場合は、コンピューターの別のUSBポート、場合によっては別のUSBケーブルを使用してみてください。USBハブを使用している場合は、iD48をコンピューターに直接接続してみてください。

“DAW再生時にクリック音やポップ音が聴こえる。”

これは、お使いのコンピューターのバッファースイズの設定が低すぎることが原因である可能性が高いです。これは、多数のプラグインや仮想楽器を含む非常に大規模なプロジェクトを実行している場合に発生することがあります。バッファースイズを大きくして試してみてください。通常、ソフトウェアシンセのトラッキングや録音には、レイテンシーを低く抑えるためにバッファースイズを小さくする必要があります。ただし、ミキシングの際には、レイテンシーがそれほど問題にならないため、バッファースイズを少し高く設定しても問題ありません。

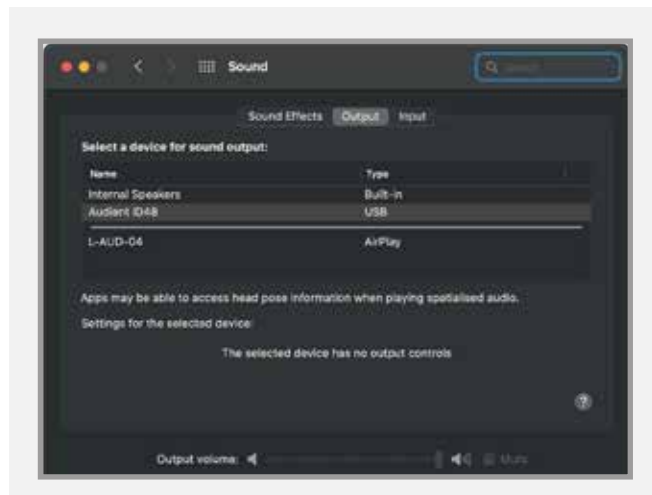
“コンピューターに接続しても、iD48からオーディオ出力が再生されません。”

まず、iD48とコンピューターを接続するUSBケーブルが機能していて、両端が接続されていることを再確認してください。

iD48がDAWとコンピューターでアクティブな再生デバイスとして設定されているかを再確認してください。:

System Preferences/システム環境設定 > Sound/サウンド > Output Tab/出力タブ > Audient iD48 (macOS)

Control Panel/コントロール パネル > Hardware and Sound/ハードウェアとサウンド > Sound/サウンド > Manage Audio Devices/オーディオ デバイスの管理 > Audient iD48 (Windows)



iD ソフトウェア ミキサー アプリケーションを起動して、コンピューターとiD48間の通信を有効にします。これは、電源投入直後に1回だけ実行する必要があります。iD48が希望の動作状態に設定されたら、iDアプリケーションを終了しても、意図したとおりに機能し続けます。

ソフトウェアミキサーで、DAWビューボタンを押して DAWチャンネルを見つけ、DAW 1+2 フェーダーのレベルを上げます。

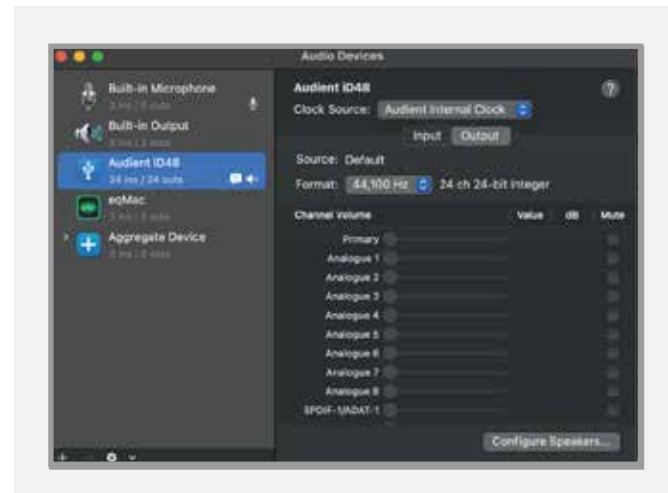
“iD48が外部 ADAT または SPDIF デバイスにロックしない、またはセッションと比較して間違ったレートで動作するなど、クロックの問題があります。”

外部デバイスの同期に問題がある場合、システムパネルのステータスLEDは赤または黄色になります。ステータスライトが赤の場合、iD48は外部デバイスからのクロック信号を検出できません。黄色の場合、間違ったサンプルレートで信号を検出できます。

macOS でのサンプルレートの変更は、Audio MIDI 設定に移動します。:

Macintosh HD > Applications/アプリケーション > Utilities/ユーティリティ > Audio MIDI Setup /Audio MIDI 設定

Audient iD48 がオーディオ デバイスとして認識されていることを確認します。(Window Menu/ウィンドウメニュー > Show Audio Window/オーディオ ウィンドウを表示)。



適切なクロックソース（マスター操作の場合は内部、外部スレーブ操作の場合は ADAT または S/PDIFクロック）が選択されていることを再確認してください。[Format/フォーマット] ドロップダウンメニューに正しいサンプルレートが表示されていることを確認します。

Windowsを使用している場合は、システムトレイのiDアイコンを右クリックします。これにより、サンプルレートなどの設定が表示されます。または、iDアプリの[Setup/セットアップ] タブでこれらの設定を変更することもできます。

サンプルレートを外部ADATデバイスとセッションに合わせて変更します。



Troubleshooting

“iD ミキサー アプリケーションをデフォルトの状態にリセットするには？”

Mac の場合：
Macintosh HD > User/ユーザー > Library/ライブラリ > Application Support/アプリケーション サポート > Audient > iD > state.xml

Windows の場合：
(C:) > ユーザー > yourusername > AppData > Roaming > Audient > iD > state.xml

※ 親フォルダは削除しないでください。このフォルダーには iDミキサー プリセットも含まれています。

“iDファームウェア/ソフトウェアが最新バージョンであることを確認するにはどうすればいいですか？。”

iD デスクトップ ミキサー アプリケーションの最新のアップデートを確認するには、**audient.com/id48/downloads**にアクセスして、最新のドライバーをダウンロードしてインストールしてください。

インターネットに接続すると、iDアプリからファームウェアのリリースが通知されます。ファームウェアのアップデートに関する詳細については、このユーザーマニュアルの前半を参照してください。

FAQs

詳細情報とバグ修正などの情報に関しては、次の場所にあるオンラインヘルプセンターを検索してください。

<https://support.audient.com/>

Audient社でのテクニカルサポートについては、同社のオンラインサポートシステムでチケットを作成してください。このシステムは、同社のWebサイトのサポートセクションにも掲載されています
上記のリンクを参照)。

スペシフィケーション



Microphone Preamplifier:

MIC GAIN:	0 to +68dB (with 10dB Gain Boost)
LINE GAIN:	-10 to +58dB (with 10dB Gain Boost)
PHANTOM POWER:	48v +/-4v @ 10mA/Channel
MIC EIN:	-127dBu
CMRR:	>80dB @ 1kHz
MAXIMUM INPUT LEVEL:	+18dBu
INPUT IMPEDANCE (Mic)	3kΩ balanced
INPUT IMPEDANCE (Line)	10kΩ balanced
FREQUENCY RESPONSE:	±0.5dB 10Hz to 65kHz
CROSSTALK:	<-115dB @ 1kHz & 10kHz
THD+N @0dBu (1kHz):	0.0016% (-96dB)
SNR:	99dB A-Weighted
XLR:	Pin 2 (Hot), Pin 3 (Cold) & Pin 1 (Shield)
1/4" JACK:	TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)
PAD:	-10dB
HPF:	-3dB @ 100Hz, 2nd Order (12dB/Octave)

Line Inputs:

LINE GAIN:	-10 to +48dB
MAXIMUM INPUT LEVEL:	+22dBu
THD+N @0dBu 1kHz:	0.0013%, -97dB

D.I / Instrument Input:

D.I GAIN:	0 to +68dB (with 10dB Gain Boost)
MAXIMUM INPUT LEVEL:	+15dBu
INPUT IMPEDANCE:	500kΩ unbalanced
FREQUENCY RESPONSE:	±0.5dB 10Hz to 40kHz
THD+N @ 0dBu (1kHz):	<0.06%
SNR:	96dB A-weighted
1/4" JACK:	TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)

Analogue to Digital Converter:

MAXIMUM INPUT LEVEL:	+18dBu (0dBFS digital maximum)
DIGITAL REFERENCE LEVEL:	+18dBu = 0dBFS
INPUT IMPEDANCE:	>10k Ω Balanced
CROSSTALK:	<-118dB @ 1kHz, <-115dB @ 10kHz
FREQUENCY RESPONSE:	±0.5dB 10Hz to Fs/2 (Nyquist)
THD+N @ -1dBFS (1kHz):	<0.0003% (-110dB)
DYNAMIC RANGE:	120dB A-weighted
1/4" JACK:	TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)

Digital to Analogue Converter

MAXIMUM OUTPUT LEVEL:	+18dBu (0dBFS digital maximum)
OUTPUT IMPEDANCE:	<100 Ω
CROSSTALK:	<-120dB @ 1kHz, <-115 @ 10kHz
FREQUENCY RESPONSE:	±0.5dB 10Hz to Fs/2 (Nyquist)
THD+N @ -1dBFS (1kHz):	<0.00026% (-111.5dB)
DYNAMIC RANGE:	124dB un-weighted, 126.5dB A-weighted
1/4" TRS JACK:	TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)

Word Clock Input/Output:

WORD CLOCK:	44.1kHz to 96kHz
WORD CLOCK INPUT TERMINATION:	75R

Headphone Outputs:

MAXIMUM OUTPUT LEVEL:	+18dBu (0dBFS digital maximum)
OUTPUT IMPEDANCE:	<50 Ω unbalanced
CROSSTALK:	<-117dB @ 1kHz, -112 @ 10kHz
FREQUENCY RESPONSE:	±0.5dB 10Hz to Fs/2
THD+N @ -1dBFS (1kHz):	<0.00023% (-112dB)
DYNAMIC RANGE:	121dB un-weighted, 124dB A-weighted
MAX LEVEL INTO 30R:	4V Peak, 2.85V RMS, 530mW
MAX LEVEL INTO 60R:	5.82V Peak, 4.12V RMS, 565mW
MAX LEVEL INTO 600R:	8.71V Peak, 6.16V RMS, 126mW
1/4" JACK:	TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)

USB 2.0 High Speed:

NO. OF INPUT CHANNELS:	24 (8 Analogue, 16 Digital)
NO. OF OUTPUT CHANNELS:	32 (16 Analogue, 16 Digital)*
CONNECTOR:	USB Type-C
INCLUDED CABLES:	1m USB 2.0 Type-C to Type-C

*Maximum of 24 unique channels at one time. See page 36 of this manual for more information.

Digital Input:

2 x 8-CHANNEL ADAT:	44.1kHz to 48kHz
2 x 4-CHANNEL ADAT:	88.2kHz to 96kHz (SMUX)
STEREO S/PDIF:	44.1kHz to 96kHz (Stereo)

Digital Output:

2 x 8-CHANNEL ADAT:	44.1kHz to 48kHz
2 x 4-CHANNEL ADAT:	88.2kHz to 96kHz (SMUX)
STEREO S/PDIF:	44.1kHz to 96kHz (Stereo)

DSP Mixer Latency

Round Trip (in-to-out)

44.1kHz	0.344ms
48kHz	0.312ms
88.2kHz	0.188ms
96kHz	0.177ms

サイズ



品質保証に関して

本機は、Audient 日本総代理店 株式会社HOTONE Japanが、購入後 3 年以内の品質保証を行っております。修理の際は、購入時の保証書（購入期日及び販売店捺印必須）を提示の上、ご購入の販売店に御依頼ください。保証書の提示が無い場合、保証内であっても3年以内の保証の対象にはなりません。

本書に記載された文章、図版、作品は、全て「著作権」及び、それに付随する「著作隣接権」等の諸権利を保有しています。弊社では内容を理解することを目的とする使用方法のみを許諾しております。

▲警告:安全のため、特に注意していただくこと

1. 異常があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてご購入先もしくは、弊社迄ご連絡ください。異常な音がしたり煙が出て異臭がした時などは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 2.電気ショックを避けるため、本体を絶対に開けないでください。内部に触ると感電する恐れがあります。内部の調整や修理は、弊社にご依頼ください。また、火事や感電を避けるために、湿度が非常に高い場所に置いたり、雨天の際に野外で使用することは避けてください。

▲警告:次のような場所での使用はできる限り避けてください。

- 湿度の非常に高い場所
- 砂やほこりが多い場所
- 台所、バスルーム、湿気の多い地下室など、水のかかりやすい場所
- 空気の循環を妨げる場所、ヒーターの近くや温度が高い場所

■取り扱いについて 乾いた柔らかい布のみを使用して、外装をきれいに保ちましょう。

■サービスについて このマニュアルに記載されていない操作や取扱いは行わないでください。記載外の使用方法で本機を使用されますと製品不良が発生する場合がございます。必ず本書に基づいた使用方法で使用してください。

記載外の使用方法による破損や修理は、保証期間中の機器であっても保証対象外になります。本体の取扱いは慎重に行ってください。万が一、負傷された場合でも弊社では一切の責任を負いません。

修理が必要な場合は、購入先もしくは弊社へご連絡ください。ホームページの「修理について」からメールのみの対応です。

用語集

A	Amperes	
ADAT	Alesis	Digital Audio Tape
ADC	Analogue	to Digital Converter
DAW	Digital	Audio Workstation
ASP	Analogue	Signal Processing
CPU	Central	Processing Unit
CUE	Artist	Headphone Mix
DAC	Digital	to Analogue Converter
dB	Decibel	
dBu	Decibel	referenced to 0.775Vrms = 0 dBu
dBFS	Decibel	Full Scale
DC	Direct	Current
D.I	Direct	Injection (Instrument Input)
DoC	Declaration	of Conformity
DSP	Digital	Signal Processing
EQ	Equaliser	
FAQ	Frequently	Asked Questions
FCC	Federal	Communications Commission
GB	Gigabyte	
GUI	Graphical	User Interface
HPF	High	Pass Filter
HV	High	Voltage
i/o	Input	/ Output
JFET	Junction	Field Effect Transistor
LED	Light	Emitting Diode
RoHS	Restriction	of Hazardous Substances
RAM	Random	Access Memory
S/PDIF	Sony Philips Digital Interface Format	
THD+N	Total Harmonic Distortion + Noise	
TRS	Tip	Ring Sleeve (1/4" Jack Balanced)
TS	Tip	Sleeve (1/4" Jack Unbalanced)
USB	Universal	Serial Bus
V	Volts	
XLR	Extra	Live Return, Extremely Low Resistance, Canon X Series, Latching, Resilient Rubber Compound... or make up your own!

AUDIENT

audient 日本輸入総代理店

株式会社HOTONE Japan

〒113-0034 東京都文京区湯島2-2-4 JP-BASE御茶ノ水9F
03-6820-5823